



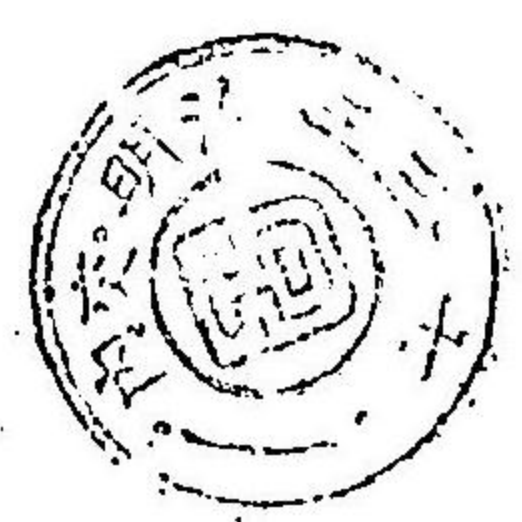
憲法大意

視學官

大東重善先生序

前判事
辯護士

池田光之丞先生著



東京

扶桑館發行

序

予や教師ボアソナード博士及ひアツペール博士
富井博士等と別袖後茲に十有余年其間の日月短
しとなさず然も其後の學術進歩の見るべきもの
なきは何ぞや他なし職に或は辯護士に或は裁判
官に是事務之事とし日夜岌々乎たりしに由らず
んばあらず如斯經過せし予は尙十有余年前の予
にして社會は日々新たなり予既に社會に遅るゝ
と十有余年たるもの乎心私かに之を慨し閑を學
理の講究に充んを思ふ

偶ま多野郡長櫻井氏同郡教育會夏期講習會に於て憲法大意の一科を加え之を講ずるを囑託し來る乃之に應し帝國憲法の大意を學理的順序を追て講述す講習會員藤岡小學校長小池氏其要旨を筆記して保有せり時明治三十二年中夏たり先是群馬郡舊第三區第五區學事會に於て同様の舉あり會員(細谷速川)氏亦其筆記を保存せり其後碓氷郡第一區(松井田聯合)第二區(安中原市聯合)佐波郡伊勢崎聯合學事會邑樂郡館林聯合學事會又同様の舉あり予其講述をなすに當り先の小池校

長及ひ(細谷速川)訓導の筆記に據り頗る便なるを覺ゆ知人野條氏其筆記を印刷し同志に頒んを求む因て之を諾し修正増補して此書を成す予や學識淺薄而其講ずる處のものは大日本帝國の國憲也況や特に國民教育者の參考に供する爲に寸毫厘の差千里の過言議豈謹て慎まざるへけんや
書中 天皇陛下を以て國家成立要素となす用語に於て不敬の嫌なきにあらずと雖も我帝國の特性を明劃にする點に於て期する處のものあり敢

て其罪を辭せざる所以也
世に憲法を解する著書少なからず然れども或は
煩に或は簡に未だ曾て學理的列序に解剖して我
國の特性を發揮し國民教育者の參考に資する適
當のものを見ず今此書を公にするは此缺を補ん
とするなり學者其主旨のある處を輕々に看過す
るをなくして可也

明治三十三年五月十日

著者記

序

友人池田光之丞君夙に法學を修め辯護士を以て
其職業とす君業務の餘暇を以て縣下小學校教員
の招聘に應し各所に憲法を講す抑憲法は國家統
治權の本躰作用及ひ其の機關の行動に關する根
本の規定なれば國民教育の上には重大の關係を
有し教育者に於ては特に其の講究を務むべき所
のものなり然るに従前教育社會には是れ等の講
究稀れなるの觀ありしか近年世運の進歩と共に
憲法講究の盛んなるに至りしは余の竊に喜悅す

二
 る所又君か業務多端の際勞を惜ますして指導に
 務められしは余の深く多とする所なり今其の講
 義筆記を印行せんとするに當り余に序言を求め
 らる惟ふに講義筆記の印行は直接に君の講義を
 聽くこと能はざる者の爲にも講究の便を與へ廣
 く教育社會を利益するに至るへきを信し一言以
 て君に答ふること斯の如し

明治三十三年五月

大東重善識

國民教育 **憲法大意目次**

第一編	總論	一
第一章	國民教育者ノ憲法ヲ講究スルノ必要	一
第二章	憲法ト諸法トノ關係附法ト	一〇
	道德	一〇
第一節	憲法ト諸法ノ關係	一〇
第二節	法ト道德	一二
第三章	憲法ノ定義並ニ國家ノ定義	一五
第一節	憲法ノ定義並ニ分解	一五
第二節	國家ノ定義並ニ分解	一五

第二編 國家ノ主權即統治權及其主體

客體 三一

第一章 統治權ノ性質 三一

第二章 天皇即統治權ノ主體 三四

第一節 天皇 三五

第二節 皇位繼承 三八

第三節 攝政 四二

第三章 國土臣民即統治權ノ客體 四九

第一節 國土即領土 四九

第二節 臣民 五二

第一項 總論 五二

第二項 臣民ノ權利 六〇

第三項 臣民ノ義務 六八

第三編 統治權各種ノ作用並ニ各機關 七〇

第一章 總說 七〇

第二章 大權作用 七一

第三章 立法作用 八四

第一節 總說 八四

第一 立法ノ意義 八四

第二 立法事項即法律ノ範圍 八六

第三 立法行為即法律ノ制定 八八

第四 法律ト命令 八九

第二節 立法機關即帝國議會 九一

國民教育
憲法大意目次 畢

及ヒ皇室典範トノ關係……………一五三

第一項	總說……………	九一
第二項	議會ノ職權……………	九九
第一	總論……………	一〇〇
第二	議會ノ職權……………	一〇三
第三	兩議院ノ特權……………	一一三
第四章	行法作用……………	一二五
第一節	行政作用……………	一三二
(一)	行政行為……………	一三三
(二)	行政命令……………	一三四
(三)	行政機關……………	一三六
第二節	司法作用……………	一四四
第四編	憲法ノ改正並ニ憲法ト現行法……………	

國民教育憲法大意

池田光之丞 著

第一編 總論

第一章 國民教育者ノ憲法ヲ講究スルノ必要

(一) 大凡國民タル者自國ノ國憲ヲ知ルノ必要ナルハ別ニ辨明ヲ要セズシテ明ナリ況ヤ其國民ヲ養成スル教育者ニ於テ之ヲ知ルノ必要ナルコトハ更ニ明カナルノ理ナリ

物體ノ硬度ハ其物體ヲ組成スル分子ノ吸引力

國家ノ強固ヲ成ス先ツ國民

第一編 總論 第一章 國民教育者ノ憲法ヲ講究スルノ必要

チシテ國ヲ思
フノ情ヲ厚カ
ラシムルニア
リ

自己ノ國家ノ
關係ヲ知ラサ
レバ國民ガ國
ノ分子タルノ
自覺完タカラ
ズ

ノ多少ニ關係アルガ如ク國家ノ強弱ハ國民ノ
國家ヲ思フノ情ノ厚薄ニ因ル而テ其國家ヲ思
ノ情ハ各人が其國ノ分子タルコトヲ自覺シ互ニ
一致スルニ因リ成果ヲ得ヘシト雖モ其分子タ
ルヲ自覺スルニハ先ツ其國ノ組織構成ノ如何
ヲ知ラサレバ其自覺全タカラズ而テ其組織構
成ノ大要ハ憲法之ヲ示ス是レ國民ガ其國ノ憲
法ヲ知ル必要アル所以ナリ既ニ國民之ヲ知ル
ノ必要アリ況ヤ其國民ヲ教養スル教育者ニ於
テチャ

(二) 國民教育ナルモノハ特ニ其國ニ適合スル人
物ヲ養成スルニ在リ

國民教育ハ完全ナル國民ヲ養成スルヲ目的ト

民主主義ヲ抱
持スル者我帝
國々々タルニ
適當セズ

國家ノ特性

特ニ其國民タルニ適合スルヤ否ヲ知ルニハ
先ツ其國體政體ノ如何ヲ知ルヲ要ス

ス其完全ノ國民トハ即チ其國ニ最モ適合スル
完全ナル人物ヲ意味スルナリ
故ニ曰ク其國ニ適合スル人物ヲ養成スルニア
リ假之ヘバ民主主義ヲ抱持スルノ人物ハ佛國
ニハ適合スベキモ我帝國々民ニ適合セズ
ニハ適合スルヤ否ヲ知ルニハ
社會ノ人類カ各種ノ事情風俗人情言語習慣地
理氣候等ヨリ漸次一致シテ國家ヲ爲スニ至ル
ヤ其國家毎ニ互ニ其國家ニ特殊ナル事情ノ存
スルアリ此ヲ國家ノ特性トス
其國家ノ特性ハ即他ノ國家ニ對シ別ニ國家ヲ
成シ益々其國家ヲ強固ニスル所以ノ事情ナレ

ハ益以テ之ヲ維持養成セザルベカラズ否少モ其國民ハ特殊ナル一致ノ事情ニ一致セザルベカラズ此ニ一致セシムル主義ヲ抱持シ完全ノ人物ヲ養成スル教育即國民教育也

故ニ如何ナルモノカ國民ヲ一致セシムル事情ナルカ如何ナル事情カ其國ノ特性ナルカヲ知ルヲ要ス而テ之ヲ知ルニハ先ツ其國政體ノ如何ヲ知リタル上ニ於テ明カナルヲ得ベシ

其國政體ノ如何ヲ知ルニハ先ツ其國憲即憲法ヲ講究スルヲ要ス

何トナレバ其國ノ國憲ハ其國ノ經歷及ヒ國情ニ因リ成立シタル國家編成及ヒ治者被治者即主權ノ統治關係ノ大要ヲ明示スルモノナレバ

國政體ノ如何ハ據テ以テ明ムルヲ得ベケレバナリ

由是觀之ハ國民教育者タルモノガ其國ノ憲法ヲ講究スルノ必要アル所以ハ國民教育其モノ、性質ニ於テ自ラ證明セラル

(三) 參考

左ニ掲クル一節ハ余ガ曾テ上野教育會雜誌ニ寄セタルモノ事舊腐ニ屬スト雖モ其當時ノ事情ヲ推察スルノ料トシ併テ本編ノ參考ニ供ス文ニ削訂ヲ加ヘザルハ裝ハザルナリ

國民教育者ニ就テ 辨護士池田光之丞稿

大日本帝國ノ相續者ヲ養成シツ、アルモノハ現ニ職ヲ國民教育ニ奉スル者ナリ就中其樞要ナル位置ニ居ルモノハ小學教育ニ從事スル諸

士ニアリ其責任ノ重大ニシテ其尊敬セラルベキ事タル亦云フヲ待タズ

然ルニ世人ノ之ヲ左迄ニ重大視セズ左迄ニ尊敬セサル觀アルハ人知未開ノ致ス所又不得止モノアリト雖モ當局者ノ啓發ト人知ノ進歩ハ近頃大ニ之ヲ願ルモノアルモノ、如シ不肖光之丞一希一望敢テ當局者ノ一顧ヲ乞フニ値セズト雖モ聊カ感スル所アリ爰ニ國民教育ニ從事スル諸士ニ對シ一希望ヲ述ヘ諸士ノ選擇ヲ仰カントス

一希望トハ何ゾ他ナシ諸士カ速カニ我帝國ノ國憲及ヒ國法ノ大意ニ疏通スルコト是也

不肖光等職分違ヒナルニモ不拘諸士ニ之ヲ希望スルニ至ル其理由少クモ三アリ

第一

今ヨリ十一二年以前ニ於テハ諸士ノ知レル如ク我國民教育ニ從事ス

ルモノ主義方針ニ於テ一定セズ否文部ノ當局者間スラ一定ノ主義ナク時ニ或ハ其間抵觸上ノ爭論サヘアリタリシニ其結果ト申シテハ恐レ多キヲナカラ明治二十三年教育勅語ノ發セラレテ始メテ一定スルニ及ヒタリシガ其勅語ニ曰ク(前略)國憲ヲ重シ國法ニ從ヒ云云ト是レ明カニ國憲及ヒ國法ノ觀念ヲ開發スルハ帝國國民ヲ啓發教導スル主義標準ノ一トセラレタルヲ炳然タリ

然ルニ其カ觀念ヲ開發セントスル職ニ從事スル者未ダ國憲ノ何タルヲ解セズ國法ノ何タルヲ明カニセサルニ於テハ正ニ之レ國民啓發教導ノ一資格ヲ有セザルモノ其教育者ナリト云フハ只形ニ存スルノミ或ハ曰ク勅語ニ國憲トハ憲法ノヲナリ國法トハ法律及命令並ニ諸規則ヲ意味スルモノナレバ之ヲ重シ之ニ從フ觀念ヲ開發スルハ易々タルノミ特ニ憲法法律ヲ知ルヲ要セズト論者ハ未ダ一ヲ知テ其二ヲ知ラサルモノ是レ我輩ガ第二ノ理由ヲ述ル必要アル所以ナリ

第二

社會的教育ハ各國ニ通融スル性質ノモノナリト雖モ國民教育ナルモノ、各國家毎ニ其主義方針ニ於テ異ナル理由ハ爰ニ辯明ヲ要セサルヘシ蓋シ此等ノ「ハ諸士却テ熟知スヘクレバナリ而各異ナル原因ハ主トシテ其各國政體ノ異ナルニ由ル「判然タル以上ハ其國民教育ノ主義方針ヲ知ルニハ先以テ其國政體ノ如何ヲ知ルヲ要ス其國政體ノ如何ヲ知ラント欲セハ先以テ其國ノ憲法及ヒ國法ノ大體ニ通スルヲ要ス之ヲ知ラスシテ國民教育ノ主義方針ヲ知レリトシ國民啓發養成ノ任ヲ完フストナスハ蓋シ他人ノ話ヲ又聞キシテ妄リニ之ニ盲從スルモノ獨立ノ教育者ニアラズ從テ獨立ノ人物ヲ養成スルハ覺束ナシ

或曰ク國民教育ノ主義方針ノ定マル原因並ニ其變更ヲ知ル原因ハ其說ノ如クナルヘシト雖モ其等高尙ノ「ハ文部監督ノ當路者ノ位置ニ

於テスヘシ其他ノモノハ其餘暇ト必要ナシト夫然リ或ハ然ラン然ルト雖モ余ハ更ニ第三ノ理由ヲ有セリ

第三

諸士ノ熟知スル如ク國民教育ナルモノハ普通學ヲ授クルヲ以テ旨トスル以上ハ其教育者タルモノカ普通學ヲ研究シ居ルヘキ「ハ勿論ノ「ナリ

而テ方今ニ及テハ國憲及國法ノ大意位ヲ知ルハ普通ノ事ニ屬シ決シテ専門家ヲ待タス抑モ社會ノ進歩今日ノ如クナラザル以前ニ於テハ專ラ人情德義ノミニテモ交際上頻繁ナラサリシカ故ニ差支ナカリシト雖モ漸次商業工業其他諸般ノ取引繁雜ヲ極ムルニ及テハ到底人情論ノミニテハ整理シ難ク百般ノ取引ハ法律規則ヲ標準トスルニ至レリ
既ニ日常諸般ノ取引ノ標準ナリ日常諸般ノ取引ノ標準ナレハ之レ普

方今國憲及
國法ノ大意
ヲ知ルハ普
通ノ事ニ屬
ス即チ
學法ヲ講
究スルノ
必要ナリ

通ノトニシテ之ヲ學科ヨリ視レハ普通學ナリ普通學ナルカ故ニ外國
ニテハ小學教育ニ於テモ高等ノ部ニハ之ヲ加テ教授ス我國未タ其制
ナシト雖モ其國民ヲ養成スルノ任アルモノ普通學ヲ顧ミスシテ可ナ
ラシヤ

(以下略之)

第二章 憲法ト諸法トノ關係附法ト

道德

第一節 憲法ト諸法トノ關係

憲法ハ如何ナルモノナルカ次章ニ於テ大要ヲ
明カニスヘク尙本書全躰ニ於テ之ヲ明カニス
ベシ本節ニ於テハ單ニ憲法ハ其他ノ諸法ト如
何ナル關係アルカニ付キ大要ヲ示スニ過キス

憲法ハ國家編制ノ大綱國權作用ノ大軌道ヲ示
スモノナレバ諸法ノ因テ生スル原則ヲ示ス法
ナリ之ヲ法力ノ關係ヨリ觀ルト又公法私法等
ノ關係ヨリ觀ルトハ大ニ趣キヲ異ニセリ之ヲ
圖解スレバ左ノ如シ

憲法 諸法ノ因テ生スル原則法タル點ヨリ觀察スレハ法力ノ點ニ於
テ諸法ニ聳立シタルモノナリ

憲法 即憲法ハ國內公法ノ一ナリ

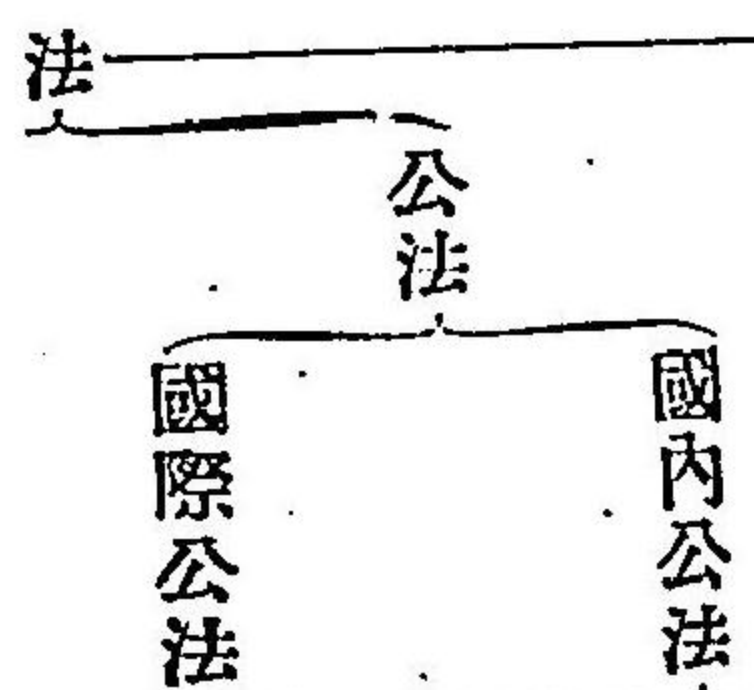
刑法

裁判所構成法

如此國家ノ權力關係ヲ定メタル法ハ凡テ此類ニ屬ス(零之)

罪人引渡其他裁判ノ管轄等ニ付國家ト國家ト公法上ノ關係ニシテ

條約其他習慣ニヨリ關係國ノ認メテ適用スル公法ヲ包含ス(零之)



一如此關係スル區域ニ於テ差異アリ
 一又直接ノ目的ニ於テ法ハ危害ヲ防クニアリ道德ハ更ニ進テ善良ノ
 行爲ヲナスヲモ目的トス(但シ法ハ危害ヲ防クノミニアラザルモ今
 ハ大體ニ付テ概言スルノミ)
 一制裁ニ於テ法ニ違背シタルモ有形的ノ制裁アリ假之刑罰又ハ損
 害賠償ノ如キ是ナリ道德ニ違背スルモ直接有形ノ制裁ハナシ
 然レモ直接有形ノ制裁ナシトシテ勿輕背德ノ制裁ハ却テ法律ノ制
 裁ヨリ甚シキモノアリ其然ル所以ノ理由ハ人間百般ノ行爲ニ向テ
 信用ヲ失スルガ故ニ人生一般ノ行爲ヲ間接ニ禁セラレタルト同一
 ノ結果ヲ生ベケレバ幸福ヲ得ルノ途ヲ塞絶セラル、ニ至ルベケレ
 バナリ
 世人動モスレバ法網ヲ免カレ背德ノコトヲナス蓋シ右等ノ理合ヲ解
 セザルヨリスルモノ多キニ居ラン教育者ノ注意スベキ所

憲法定義ニ於
ル諸博士ノ學
說

(一)

定義

憲法ノ義ヲ解スルモノ種々アリ今先ツ先輩
 ノ義解二三ヲ掲ケ然ル後余カ定義ヲ述ヘン
 (イ) 國家ノ生活ハ意志ヲ立法部ニ決シ之ヲ行
 政部ニ於テ發作ト爲スヨリ成立スルモノ
 ナリ
 立法行政ノ此關係ヲ明文ニ顯スモノハ憲
 法是ナリ(スタイン博士)

此義解ハ學理上憲法ノ性質ヲ示シタルモノナ
 ルベシト雖モ我帝國憲法ノ如キ憲法上ノ大權

第三章 憲法ノ定義並ニ國家ノ定義

第一節 憲法ノ定義並ニ分解

作用ヲ表示スルコト不明ナルガ故ニ我憲法ノ定義ニ適當ナラズ

(ロ) 憲法トハ法律ノ上ニ聳立スル所ノ規則ナリ (穂積博士舊講義)

此義解ハ法力ニノミヨリ區別シタルモノニテ簡ニ失シ明瞭ヲ欠ク假之皇室典範ノ如キモ法律ノ上ニ聳立スル規則ナレド憲法ニハアラザルガ如キモノアル是ナリ

(ハ) 憲法ハ國家統治ノ大法ニシテ國權ノ本體ト行用トノ大綱ヲ規定スルモノナリ(同上博士) 此義解ハ間然スベキ點ナシ但國家組織要素ノ一ヲ意味セズ蓋シ民主國ヲ君主國トスルト君主國ヲ民主國トスル場合ハ憲法ノ改廢アルヲ

想像セザルベカラズ又法力ヲ示サズ

(ニ) 國家ノ立法部ニ於テ人民ノ意志ヲ立テ行政部ニ於テ此意志ニ從テ人民生活ノ發達ヲ計リ元首ニ於テ此二部ノ發動ヲ主宰スルノ間ニ於テ便利ニ社會ノ原理ヲ斟酌スルハ最も重大ノ一ニシテ此斟酌ノ原則ヲ定ムルモノハ即チ憲法ニアルコト明瞭ナルヘシ(有賀博士)

此義解ハ前項(イ)ノ義解ト同且法力ヲ示サズ

(ホ) 國家ハ臣民各自ノ孤立ノ力ノ及ハサル範圍ニ於テ安寧ヲ保チ幸福ヲ増シ以テ其發達ヲ計シカ爲ニ存スル團體ナリトノ主義ニ基キ其存立ヲ堅固ニシ其活動ニ軌轢ヲ

カラシメンカ爲ニ元首立法行政ノ職權及其相互ノ關係並ニ臣民ノ權利義務ヲ明カニスルモノナリ(同上博士)

此義解ハ(ニ)ノ義解ト同ク法カヲ示サズ

(ハ)憲法ハ國家ノ大經ヲ綱舉シ君民ノ分義ヲ明劃ス(伊藤侯爵)

是レ簡ニシテ明瞭ヲ欠ク

(ト)憲法ハ國家ノ最モ重大ナル規則ニシテ臣民ハ子子孫孫千萬世ノ後マテ謹テ遵奉スヘキ義務ヲ負フモノナリ(教育敕語衍義ノ著者)

重大ナル規則ト云フノミニテハ性質ヲ示スニ足ラズ又子孫カ遵奉スル義務ハ其他ノ法ト雖モ變更セザル間ハ異ナルコトナシ

著者ノ憲法ノ定義

(二)

余カ可ナリト信スル定義ハ左ノ如シ
憲法ハ國家ノ組織並ニ其組成要素及其各機關等ノ權限ヲ定メタルモノニシテ法律命令ヲ以テ變更シ得ザル國法ナリ
請フ次項ニ於テ之ヲ分解セン

(イ)憲法定義ノ分解
國家トハ如何是レ次節ニ於テ之カ定義ヲ下シ及ヒ説明スル所ナリ爰ニ畧ス

(ロ)組織云々(第二編及憲法ノ編成示之)

我憲法ハ第一章ニ天皇ノコトヲ掲ケ君主國家ノ編制ナルヲ示シ第二章ニ臣民ノ權利義務ヲ示シ第三章ニ立法機關ノコトヲ第四章ニ行政機關

上ハ至尊ノ大
權ヨリ下臣民
ノ權利義務ヲ
明カニス

ナリ(憲法五條)

(ホ) 權限ヲ定メ云々自至尊大權至臣民權義
例之議會ハ立法ニ協賛スレモ軍事外交ニ
直接ニ參與ヲ得ス樞密顧問ハ 天皇ノ諮
詢ニ答フルモ施政ニ啄ヲ入ル、ヲ不得裁
判所ハ司法權ヲ行フモ立法行政ニ啄ヲ容
ル、ヲ不得是レ皆各機關ノ權限ヲ憲法ニ
於テ定ムル所ナリ(第二編第三編參照)

定メ云々ノ文字ニ拘泥スベカラズ單ニ明カニ
スルノミ創設ノ義ニアラズ蓋シ憲法ハ發布以
前ニ存在スルモノトノ意義ヨリ觀ルモハ定ム
トスヘク明カニスト云フハ穩當ナラサルニヨ
リ暫ク定ムノ文字ヲ用ヒタリ

憲法ノ法力諸
點ニ變遷スル

但シ議會ノ權限ニ付テハ却テ創設ト解スルノ
適當ナルガ如シ
要スルニ機關ノ權限ハ創設スルコアルモ至尊
ノ大權ハ憲法發布ノ以前ヨリ獨立自存シ炳ト
シテ日月ノ如シ

(ヘ) 法律命令ヲ以テ變更シ得ザル云々
此一句ハ憲法ノ法力ハ他ノ諸法ノ上ニ聳
立スルヲ示スナリ即チ左ノ諸點ニ於テ他
ノ法律ト異ナリ
一 發案權獨 至尊有之玉フ

法律ノ議案ハ兩議院及ヒ政府發案權ヲ有スル
モ憲法ハ條項ヲ改正スルノ必要アルモ獨リ至
尊發議ノ權ヲ有スルノ外他ノ如何トモ爲シ能

ハザル所ナリ

一 開議ノ場合ニ於テ法律ト異ナリ

通常法律案ヲ議スルニハ議員三分ノ一以上ノ出席アレバ開議シ得ルモ憲法ノ條項修正案ノ場合ニ於テハ議員三分ノ二以上ノ出席ナケレバ議ヲ開クヲ得ズ

一 決議ノ場合ニ於テ法律ト差異アリ

通常議院ノ決議ハ出席議員ノ過半数ヲ以テ決スルヲ得ルモ憲法ノ場合ニ於テハ出席議員ノ三分ノ二以上ノ多數ヲ得ザレバ決スルヲ得ズ

一 法律及ヒ行政命令ハ法律ヲ以テ變更スルヲ得レモ(前項ノ如キ手續ノ差異アルガ故ニ其手續法式ヲ經タル上ニアラ

ザレバ變更シ得サルガ故ニ憲法ヲ變更スルヲ得ズ

一 反之大權命令及ヒ法律並ニ行政命令ハ

憲法ヲ以テ變更セラル

一 大權命令ハ大權命令ヲ以テ變更スルヲ

得レモ憲法ヲ變更シ得ズ

憲法變更ノコトハ第四編ニ説明ス

(ト) 國法ナリ云云是レ國內公法タルヲ示スニ過キズ他ノ國法ト異ナル點ハ前諸項ニ於テ既ニ顯著ナル所ナリ爰ニハ國際法ノ類ニアラザル點ヲ示スナリ

第二節 國家ノ定義並ニ其分解

(一) 國家ノ定義

國家ナル者モ之ヲ主觀的ニ觀察スルト客觀的ニ觀察スルトニヨリ其定義ヲ異ニセリ或博士ハ現ニ余ニ語ルニ 天皇ハ即チ國家也ト云ヘリ其理由ヲ聞クニ左ノ如シ
國權ノ主體之ヲ國家ト云フ
天皇ハ國權ノ主體也
故ニ 天皇ハ國家也

此說ハ通俗ニ適セズ余ハ左ノ如キ定義ヲ穩當ト思量ス

國家トハ一定ノ領土ヲ有スル人衆ノ共同團體ニシテ不羈獨立ノ人格ヲナスモノヲ云フ或曰獨立ノ人格ト云フノミニテハ未ダ治

天皇ハ即チ國家也トノ說

著者ノ國家ノ定義

(二) 國家定義ノ分解

(イ) 一定ノ領土ヲ有スル云々

領土ハ國土ナリ國土ハ其國權ノ及ブ海陸ノ範圍内ヲ總稱ス換言スレバ他國ノ主權ヲ拒斥スル地域内ヲ云フ

者被治者ノ關係ヲ看ル能ハズ故ニ(獨立ノ人格)ナル語ニ代ユルニ(獨立ノ主權之ヲ統治スル)ノ語ヲ以テスベシト

以下右定義ノ分解ヲ爲スヘシ

他國ノ主權ヲ拒斥スル云々ト云フモ領土内ト雖モ外國公使館及ヒ軍艦等ハ他國主權ノ存在ヲ認メ以テ普通領土ノ取扱ヲナサルハ國際上一般ノ慣例ナリ

國家ヲ爲スニ領土ナカル可カラザルコトハ勿論ニシテ古昔 歐羅巴北部ノチウトン人種及ビキノミリ人種ガ漸次西方ニ移轉スルヤ一定ノ領土ヲ保有セズ終ニ國ヲナサズ反テ現今ノ支那帝ノ先祖ハ北部ヨリ南遷シ領土ヲ得テ國ヲ成セシモノナリト聞シ

領土即國土ノ事ニ付テハ第二編第三章第一節ニ於テ説明シ爰ニ畧之

(ロ) 人衆ノ云々
人數ノ多キヲ云フ乍併多キトハ何程位ヨリ多キカ比較上ノ語ヲ以テ一定シ難シト雖モ要スルニ治者被治者ノ關係ヲ生シ國際上國ト認メ得ラル、丈ケニテ可ナリト

知ルベシ

(ハ) 共同團躰ニシテ云々
共同團躰ニアラザレバ多衆ト雖モ國ヲ成

サズ各人分離スルノ情態ハ他國ト内國トノ區別ヲ生セズ從テ國家ノ成立ヲ來サズ不羈獨立ノ云々

(ニ) 是レ自主自存ニシテ自ラ制スルノ外他ノ制肘ヲ受ケザルヲ示スナリ

自ラ制スルノ外云々ト云フハ例之ハ國際條約ノ如ク國家自ラ約束ヲ以テ或ル權ヲ讓リ或ハ權利ノ行使ヲ停止スル場合ノ如キヲ云フ如此場合ノ外國家ハ不羈獨立ニシテ少モ他ノ抑制ヲ受ケズ此場合モ其實ハ他ノ抑制ヲ受クルニ

アラズ自ラ之ヲ承諾セルナリ故ニ曰不羈獨立

(ホ) 人格ヲナスモノヲ云フ

人衆共同團結シ領土ヲ有シ自主獨立シテ
自ラ他ノ浸害ヲ防ギ他ト交際ヲナシ内ハ
各自ノ利益幸福ヲ圖リ以テ權利ノ主躰ト
ナリ以テ義務ヲ負フ例之バ人ガ四肢五躰
ト精神ヲ具テ獨立シテ働クガ如クナルヲ
云フ

然リ而テ其精神主腦タルモノハ我帝國ニ
於テハ至尊御一人ナリ

天皇ハ國家也
トノ說ニ反對
スル所以

天皇ハ國ノ元首ニシテ云々(憲法第四條)我輩ハ
國ノ主權ハ天皇ニアリト云フモ天皇ハ即チ國
家ナリト云フ說ハ通俗ニ適セズト云フ所以ハ
此點ニアリ

第二編 國家ノ主權即統治權及其主體客體

第一章 統治權ノ性質

憲法第一條第
三條第四條第

國家統治ノ大權ハ天皇之ヲ有シ玉フ即大日本
帝國ヲ統へ治ムルノ權ナリ今此性質ヲ觀ル左
ノ如シ
(イ) 統治權ハ國家ノ主權也

或曰國家主權ハ國家之ヲ有シ統治權ハ其主權
ノ一支權ニシテ即チ主權ヲ執行スルノ權利ナ
リト如此ハ妄リニ他國ノ君主權ニ倣ヒ我憲法
ヲ解釋セントスルモノニシテ其過チ輕カラズ

若シ此說ノ如クセバ 天皇ハ單ニ國法ノ執行者タルニ過キザラントス毫厘ノ違ヒ千里ノ誤國民教育者タルモノ注意スベキノ點ナリ

(ロ) 統治權ハ國家最高權也

國家ノ主權タルカ故ニ自ラ明カナリ

(ハ) 統治權ハ唯一ナリ

主權ニシテ最高ナリ一アリテ二ナシ南北兩朝互ニ立ツカ如キハ不可容

(ニ) 統治權ハ不可分也

國家ノ三大權ヲ各獨立トシ君主ハ其内ノ行政權ノミヲ有スト云フガ如キハ我立國ノ編制ト正ニ相反ス我國ノ三大權ノ獨立ハ各其職權上ノ限域ヲ浸サ、ルニ在リテ存ス

(ホ) 統治權ハ全能ナリ

尙前項ヲ參照シテ不可分ノ意義ヲ明ニスヘシ

全能ノ文字ニ拘泥スヘカラズ國內ニ權利作用ヲナシ能ハザルコトナシトノ義ナリ例之法律ノ變更憲法ノ改正公民權ノ伸縮等凡テ爲シ能ハザルコトナキヲ云フ

乍併其之ヲ行フニ當テハ憲法ニ則ルベキモノナルガ故妄リニ違法ノコトヲ爲スコト不能ハ勿論ナルベシ

(ヘ) 統治權ハ不可侵

全能ナルカ故ニ不可侵、侵スコトヲ許スハ國家主權ノ主旨ニ反ス

(ト) 統治權ハ獨立ナリ

國家カ不羈獨立ナルガ故ニ其主權ノ不羈獨立ナルコトハ元ヨリ明カナリ

(チ) 統治權ハ永久ナリ

國家ノ目的ハ人民各自ノ幸福ヲ増進スルニ於テ元ヨリ期限ノアル可キモノニアラズ

從テ其主權ナル統治權モ永久ナルコト勿論ナリ

(リ) 統治權ハ以上ノ如キ性質ナルカ故ニ國家

ト終始スルモノニシテ憲法ヲ以テスルモ

妄リニ變更スルヲ不許

妄リニ云々ニ注意スベシ若シ夫レ統治權全能ノ力ヲ以テ法ニ則リ之ニ變更ノ必要アル場合

ニ於テ誰カ之ヲ妨クルモノアラザヤ

第二章 天皇即統治權ノ主體

第一節 天皇

憲法第一章

大日本帝國ノ國權即チ統治權ヲ掌有スル位置即チ皇位也

皇位ハ國權ノ存スル所即統治權ノ本源也

皇胤ニシテ皇位ニ即カセラレタル至尊御一人

即天皇ハ固有ノ權ヲ以テ大日本帝國ノ國權ヲ

掌有セラル

此權ヲ有スルモノ、意思ハ即國家ノ意思タリ

天皇ハ國ノ元首ニシテ統治權ヲ總攬シ憲法ニ

從ヒ之ヲ行フ即國家ノ元首首腦ノ意志ハ國家

ノ意志タルコト恰モ人ノ精神ハ其首腦ニアルト

異ナルコトナシ

國權即チ統治
權ノ主體

憲法第一條ニ大日本帝國ハ天皇之ヲ統治ス同

第四條ニ天皇ハ國ノ元首ニシテ統治權ヲ總攬

シ此憲法ノ條規ニ依リ之ヲ行フ云云

統治ス又ハ總攬スト云フノミニテ國權ノ執行

ノミヲ云フカ又ハ國權ノ掌有ヲモ意味スルカ

不明ナレモ憲法發布ノ勅語ニ曰ク(前略)國家統

治ノ大權ハ朕力之ヲ祖宗ニ承テ之ヲ子孫ニ傳

ル所ナリ云々憲法第六條天皇ハ法律ヲ裁可シ

云云裁可セザル權モアリ之ヲ我歴史ニ對照ス

レバ天皇ハ國權ノ主體ニシテ單ニ執行權ノミ

ニアラザルコト炳然タリ

皇位ハ獨立ニシテ自存ス

憲法又ハ其他ノ法律ニ依リ生スルニアラズ憲

法ハ王言也

法其他ノ法律ハ王言ナリ
故ニ國家各官ノ發スル法令ハ皆王ノ委任ニ基
クナリ(前章參考)

皇位ハ唯一ニシテ無限ナリ

南北兩朝ノ互立ノ例ノ如キハ憲法ノ認メザル

第一ノ天變ニ不過(全上)

皇位ハ永久ニシテ間斷ナシ

西諺ニ曰ク王ハ死セズ第二節(一)參照

皇位ハ國家ト終始ス(全上)

皇位ノ神聖ニシテ不可侵ハ 天皇ノ神聖ニシ

テ不可侵ト一體ナリ

伊藤侯爵ノ憲法義解ニ曰ク「天地剖判シテ神聖
位ヲ正ス(神代記)蓋天皇ハ天縱惟神至聖ニシテ

天皇ハ神聖ニ
シテ不可侵

王ハ死セズ

臣民群類ノ表ニアリ欽仰スヘクシテ干犯スヘカラズ故ニ君主ハ元ヨリ法律ヲ敬重セザルベカラズ而テ法律ハ君主ヲ問責スルノ力ヲ有セズ獨不敬ヲ以テ其身ヲ干瀆スベカラサルノミナラズ併テ指斥言議ノ外ニアルモノトス或學者ハ神聖不可侵ハ無責任ノ義也ト余ハ神聖ニシテ侵スベカラズト云フノミニテ別ニ解チナサズ曰 天皇ハ神聖不可侵

大日本帝國ノ皇室ト終始ス

天皇ハ大日本帝國ノ元首也

元首ナルカ故ニ此元首ナキハ人ニ首腦ナキト同ク國家ノ人格ヲナサズ故ニ大日本帝國ハ皇室ト共ニ終始ス

憲法ニ條及ヒ皇室典範

第二節 皇位繼承

皇位萬世一系世界無比

(一) 皇位繼承原則

皇位ハ萬世一系ノ皇胤ニシテ男系ノ男子之ヲ繼承ス故ニ左ノ大則ニ依ル

第一皇位ヲ繼承スルハ皇胤ニ限ル

和氣清麿還奏ノ言ハ世ノ普ク知ル所ナリ

第二皇位ヲ繼承スルハ男系ニ限ル

故ニ女皇ノ男子ハ繼承シ得ズ

第三皇位ヲ繼承スルハ男子ニ限ル

故ニ男系ニ萬一女ヲ生スレバ繼承シ不得

第四皇位ハ唯一ニシテ分裂セザル

故ニ南北兩統ノ如キハ憲法ノ認メザル所

皇位ハ間斷ナシ天皇崩御スルキハ皇太子即天皇ナリ即位ノ禮ノ如キ之ヲ形ニ表スニ過

ギズレ

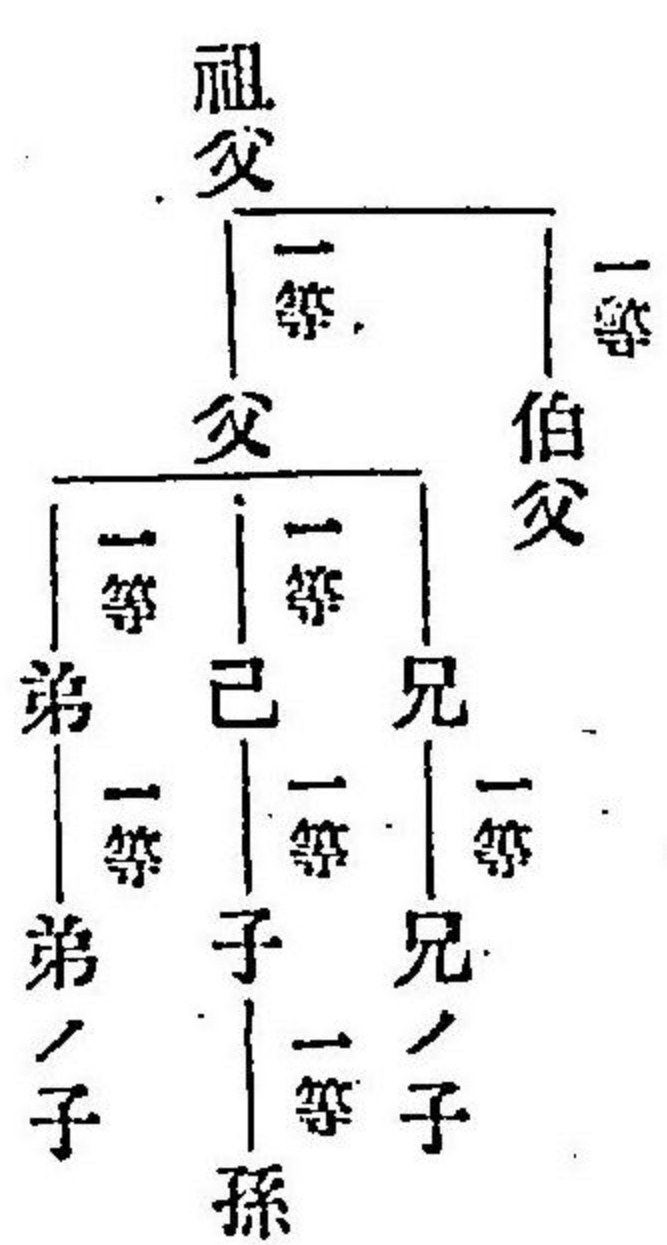
(二) 繼承順序

(皇嗣精神病若ハ身軀ノ不治ノ重患アリ又ハ重大ノ事故アルトキハ皇族會議及ヒ樞密顧問ニ諮詢シ順序ヲ換フルヲ得)

- 一 皇長子
 - 二 皇長孫
 - 三 皇次子及子孫
 - 皇子ノ間庶子カ繼承スルハ嫡子孫ナキハニ限ル
 - 四 皇兄弟及其子孫
 - 五 皇伯叔父其子孫
 - 六 以上ノ外ノ場合最近親
- 但シ同等親内嫡ヲ先キニシ庶ヲ後ニス長ヲ先ニシ幼ヲ後ニス

近親ト否トヲ區別スルハ親族ノ世數ヲ以テ計算ス參考ノ爲左ニ畧圖ヲ掲ク

左ノ圖ニ於テ己ト父ノ間ハ一等親ナルモ祖父ニ至レハ更ニ一等ヲ加ル故二等親トナル



又伯父ニ至ルニハ更ニ一等ヲ加フル故ニ三等トナル又兄トノ間ハ先ツ父ニ一等夫ヨリ又父ヨリ兄ニ至ルノ間ノ一等ヲ加フル故ニ二等親トナル兄ノ子ハ更ニ一等ヲ加フル故ニ三等親トナル

ル以下做之

第三節 攝政

憲法第十七條
皇室典範

天皇未タ成年ニ達セザルカ又ハ久キニ且ル故
障ニヨリ大政ヲ自ラスル能ハザル場合ニ於テ
他ノ皇族ニ於テ天皇ノ名ニ於テ大政ヲ行フ此
ヲ攝政ト云フ

今左ノ諸點ヨリ之ヲ觀察スベシ

第一如何ナル場合ニ攝政ヲ置ク乎

(一) 天皇未ダ成年ニ達セザル場合

成年ニ達セズトハ滿十八年ニ成ラザル御幼年
ノ間ヲ云フ

通常臣民ハ二十年ヲ以テ成年トス然レモ天皇

及ヒ皇太子皇太孫ハ滿十八年ヲ以テ成年トス
ルヲ皇室典範ナリ

(二) 天皇久キニ且ル故障ニヨリ大政ヲ自ラ
スル能ハザル場合

久キニ且ル云々故ニ一時ノ不豫ノ如キハ攝政
ヲ置クノ場合ニアラズ例之身體精神ノ重患久
キニ且ル場合ノ如キヲ云フ

攝政ヲ置クニ付(一)ノ場合ハ當然之ヲ置
ク(二)ノ場合ハ皇族會議及ヒ樞密顧問ノ
議ヲ經テ之ヲ置クナリ

議ヲ經テ云々ト云フハ諮問ヲ受クルニアラサ
ルヲ示スナリ諮問ナクモ議ヲ行フベク又事實
久キニ且ルモノカ果シテ大政ヲ自ラナシ能ハ

サル乎等ヲ定ムルナリ故ニ其議ハ委任ニアラズ不可混

第二如何ナル人ガ攝政タル乎

攝政タルヘキモノハ皇族ニ限ル其順序左

ノ如シ

(一) 成年ニ達シタル皇太子

(二) 成年ニ達シタル皇太孫

以上二個ノ場合ハ天皇久キニ亘ル故障ニヨリ大政ヲ親ラナシ能ハザル場合ニ限ルベシ未成年ノ場合ニアル可カラサレバナリ

(三) 親王

(四) 王

(五) 皇后

(六) 皇太后

(七) 太皇太后

(八) 内親王

(九) 女王

右ノ如シト雖モ又左ノ規定ニ從フヲ要ス

(イ) 皇族男子攝政ニ任スル順序ハ皇位繼承

ノ順序ニ從フヘキコト

皇族女子攝政ニ任スルモ準之

(ロ) 女子攝政ニ任スルハ配偶者アラザルモ

ノニ限ル

(ハ) 攝政ニ當ルベキモノ身心重患其他重大

ノ事故アルトキハ皇族會議樞密顧問ノ議ヲ經テ順序ヲ換フルコトヲ得

(二) 皇太子皇太孫未成年又ハ故障ノ爲他ノ皇族攝政ニ任シタル場合ニ於テ皇太子皇太孫成年ニ達スルカ又ハ故障ノ止ミタルトキハ攝政ノ任ハ皇太子皇太孫ニ讓ル

皇太子皇太孫以外ノモノ、場合ニハ讓ルニ及ハザルナリ

第三攝政ヲナス人ニヨリ差異アル乎

差異アルコトナシ但シ前項(二)ノ場合ニ於テ皇太子皇太孫ニ讓ラザルヲ得ザルハ一

攝政ト代政

第四攝政ハ代理ナル乎

ノ差異ナルガ如シト雖モ是レ單ニ攝政ノ職ヲ繼續スルト否トノ差ニシテ攝政其モノ、性質ニ差ナシ

攝政ハ代理ナラズ代政スルナリ其差異左ノ如シ(爰ニ代政ト云フハ他ノ政治機關ノ代政トハ異ナリ不可混)

(一) 代理ハ委任ヲ要シ代政ハ委任ナシ

代理ヲ委任シ得ル場合ナレバ是レ即大權ノ行使ニシテ攝政ヲ置クノ必要ナキ場合ナリ

(二) 代理ハ隨意ニ解任シ得ルモ代政ハ隨意ニ解任シ得ズ

例之天皇未タ成年ニ達セザル場合ニ攝政ヲ置

キ之ヲ解任スルコトヲ得ズ成年ニ達シ始テ止ム

(三)代理ハ一部ノ委任ヲナスコトヲ得ルモ代理ニ一部ノモノナシ

(四)代理ハ追認否認無効等ノ爲之ヲ廢除セシムルモ代理ハ追認否認無効等ノコトナシ常ニ有效ナリ

第五代政ハ天皇ノ名ニ於テ政務ヲ行フ天皇親ラ行フト其間差異ナキ乎

名ニ於テ異ナルノミニアラズ特ニ左ノ如キ差異アリ

(一)代政ヲ置クノ間ハ憲法及ヒ皇室典範ヲ

變更スルヲ得ズ

此レ即チ國家動亂ノ漸ヲ微ニ防クナリ

(二)攝政ハ統治權以外ノ權即 天皇御一身

ニ附從スル權ヲ行フヲ得ズ

攝政ハ攝政ニシテ代位セサルカ故也例之ハ陛下ノ敬稱ヲ受ルヲ不得如キ是ナリ

攝政ハ大政ニ付其責ニ任セサルコト天皇ニ同シ

至尊ノ名ニ於テ攝行スモノニシテ民議ヲ避ルヲ却テ平穩ノ策ナリト認ムルニ依ル

第三章 國土臣民即統治權ノ客體

第一節 國土即チ領土

國土ハ國家ノ基礎ニシテ國權ノ行ハル、區域領土ナリ

領土ハ國權ノ行ハル、區域ナルカ故ニ其上ニハ外權ノ侵犯ヲ防ク

故ニ領土ハ國民ノ安宅ナリ

(イ) 領土ノ上下ニ及ブ限界

上天空ニ達シ下地心ニ及フ

故ニ例之ハ風船ニテ國上ヲ通過スルヲ禁止スル權アリ地下ヲ掘穿スルヲ禁スルヲ得ヘシ或學說ニ依レバ實力ノ及ブ區域ニ限ルカ故ニ砲丸ノ達スル高サ丈ケナリト云ラニ歸着ス

(ロ) 領土ノ周圍ニ於ル限界

領土權ト所有權

(ハ) 領土ト所有權ノ區別

海岸ハ勿論海中三英里迄ハ領土内トスルコト國際法ノ認ムル處ナリ但シ條約習慣ヲ以テ其以外ニ定メタルモノハ其定メニ依ル領土ト所有權ノ區別領土權ハ統治權ノ及ブ處ヲ云ヒ所有權ハ其統治權ノ保護ヲ受クル私權ニシテ有躰物ニ對スル使用收益處分ヲナス權利ヲ云フ一ハ公權一ハ私權ナリ故ニ一物ノ上ニ此二權ノ併立スルハ當然ニシテ牴觸スルコトナシ

普天ノ下王土ニ非ラザルナク率土ノ濱王土ニ

アラサルハナシトハ或ハ領土權ヲ稱シタルカ

第二節 臣民

第一項 總論

憲法第十八條

(一) 臣民ノ意義

法律ニ依リ日本人トシテ統治權ノ下ニ立ツ
モノヲ臣民ト云フ

我憲法ニ於テハ臣民ノ上ニ立ツモノ 天皇ノ
外別ニ臣民以外ノ者ヲ認メズ
故ニ統治權ノ下ニ立ツ日本人悉ク臣民ナリ皇
族ト雖モ天皇ニ對シテハ臣民ナリ
日本人ニアラザルモノハ國內ニ居ルモ臣民ニ
アラザルコ勿論ナレトモ國內ニ居ルモハ外國

法例國籍法民
章第一編第二

内外人區別ノ
効果

(二)

- 臣民ト否トノ區別ヨリ生スル効果
- (イ) 臣民ハ政治上ノ公權ヲ享有スレトモ外國人ハ享有セズ
- (ロ) 臣民ハ私權完全ノ享有ヲ得レトモ外國人ハ或私權ノ享有ヲ不得

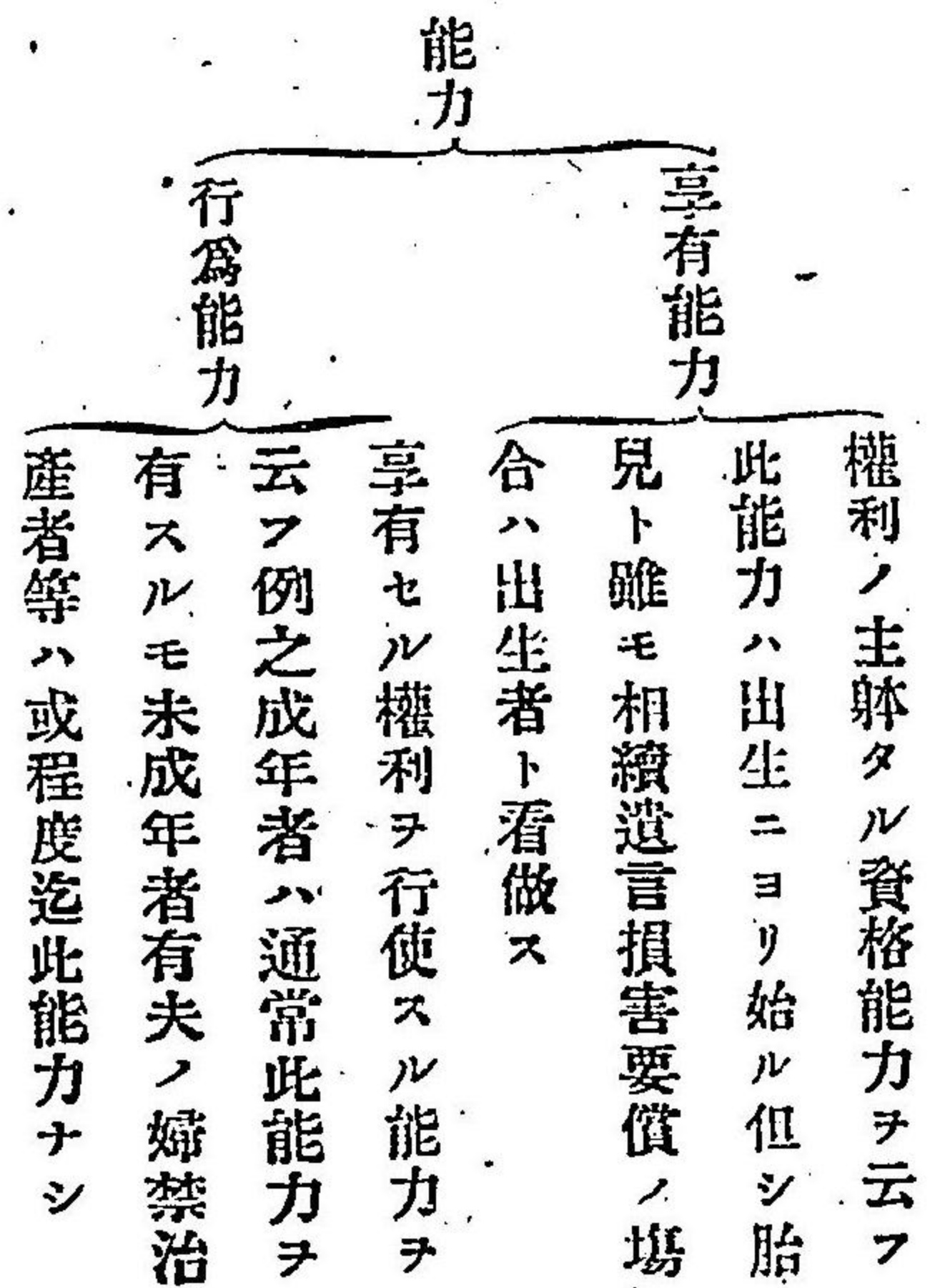
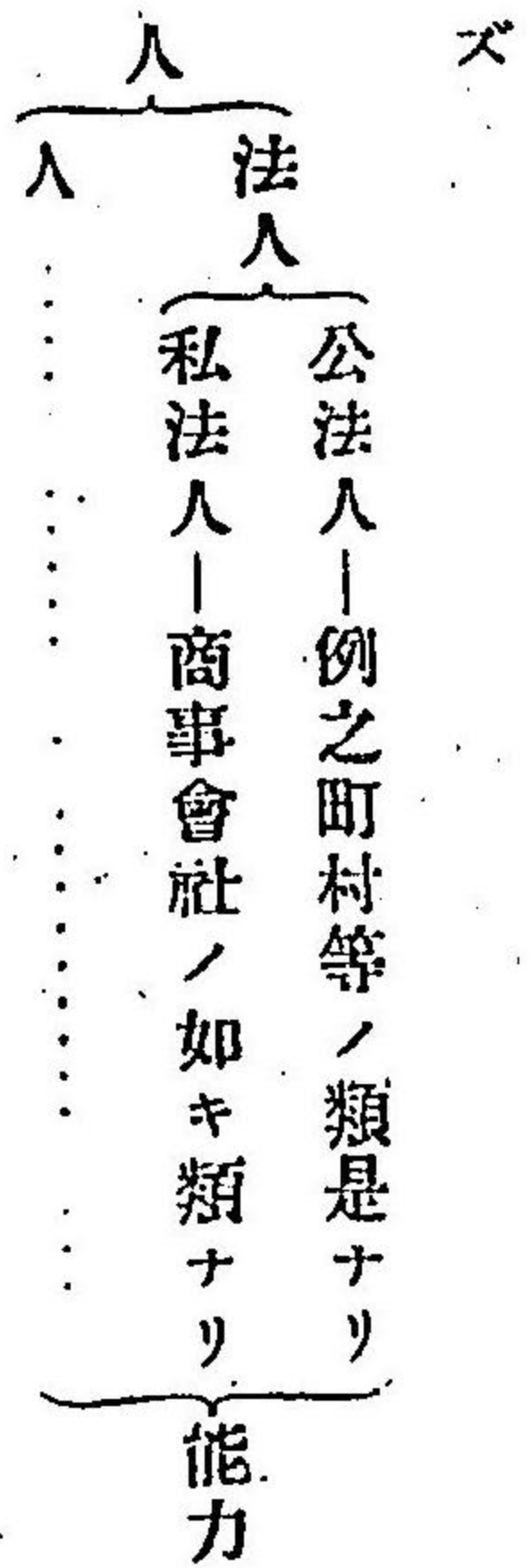
人ト雖モ統治權ノ及フハ又勿論ナリ

或私權ト云フ例之土地ノ所有權ハ外國人ニ認
メザル如キ是ナリ

臣民ノ權利

- 公權 (帝國會議員選舉ノ權及ヒ被選舉權ノ如キ類也畧之)
- 私權 (財產權、物權債權等畧之)
- 親族權、相續權、人格權、專用權此類畧之

外人ハ此内ノ一部分ノ享有保護ヲ受ルニ過キ



例之臣民ナレバ土地所有權ニ付未成年者ト雖

モ享有能力アリ然レモ外人ニハ享有能力モナシ

- (ハ) 日本臣民ニ非ルモノハ政事上ノ結社ニ加入シ又ハ公衆ヲ會同スル政談集會ノ發起人タルヲ得ズ(治安警察法六條)
 - (ニ) 臣民ハ兵役ノ義務ヲ有スルモ外人ハ之ヲ有セズ
 - (ホ) 臣民ハ官職ニ任セラルルニ付制限ナシト雖モ外人ハ臣民籍ニ入りタル後ト雖モ左ノ官職ニハ一定ノ條件ヲ充シタル上ニアラザレバ任スルヲ得ズ
- 一 國務大臣

- 二 樞密院議長 副議長 顧問官
- 三 宮内敕任官
- 四 特命全權公使
- 五 陸海軍將官
- 六 大審院長 會計検査院長 行政裁判所長 官

七 帝國議會議員

此等高等重要ノ職ハ未ダ以テ彼ニ任スル丈ケ
ノ信用ナキニ依ル

- (ヘ) 以上ノ外内外人ノ區別ヨリ生スル結果ハ
裁判ノ管轄能力ノ決定ニ關スル點等一々
枚舉ニ暇アラズ

(三) 臣民ト爲ル場合

戰爭其他條約ノ結果ニ因リ國土ヲ領得シタ
ル場合ニ於テ其人民ガ外國ニ轉籍セザレバ
帝國ノ臣民ト爲ルコト元ヨリ當然ナリ其他
ノ場合ニ於テ臣民タル場合左ノ如シ

(イ) 出生ニ因ル場合

- 一 生レタル子ノ父ガ日本人ナレバ子ハ日本人ナリ
- 二 父知レザルトキ又ハ國籍ナキトキ母ガ日本人ナレバ其子ハ日
其子ハ日本人本人ナリ
- 三 父母知レザルトキ又ハ國籍ナキトキ日本ニ生レタルトキハ其
子ハ日本人ナリ

(ロ) 法律ニ因リ國籍ヲ取得スル場合

- 一 外國人カ日本人ノ妻トナリタルトキ

- 二 外國人カ日本人ノ入夫トナリタルトキ
- 三 日本人タル父母ニヨリ認知セラレタルトキ
- 四 日本人ノ養子トナリタルトキ

(ハ) 歸化ニ因ル場合

歸化トハ外國人ガ法律ノ定ムル所ノ條件ヲ充シテ内國臣民トナルヲ云フ

以上列舉シタル(イ)(ロ)ノ場合ハ模様ニヨリ此ヲ類別シタルニ過キズ即チ(イ)ノ場合ト雖モ法律ノ規定ニ因ルナリ又(ロ)ノ場合モ原因ヨリ區別スレバ婚姻又ハ縁組ニ因ルト云フテ至當トス歸化ト雖モ法律ニ因ルナリ今記憶ニ便スル爲ニ三種ニ分チシノミ

(四) 臣民タル權利ヲ失フ場合

- 一 日本ノ女カ外國人ト結婚シタルトキ
 - 二 婚姻又ハ養子縁組ニ因リ日本人トナリシモノガ離婚又ハ離縁シ外國籍ヲ得ルトキ
 - 三 自己ノ志望ニ因リ外國籍ヲ取得シタルモノ
 - 四 日本ノ國籍ヲ失フタルモノノ妻子ニシテ其國ノ國籍ヲ得タルモノ
 - 五 外國人ニ認知セラレタル場合
- 此等詳細ノ「ハ本講ノ目的ニアラザルガ故ニ畧之
- (五) 臣民タル權利義務ハ以下第二項並ニ第三項ニ示スガ如シト雖モ此等ノ權利ハ戰時又ハ國家事變ノ場合ニ於テ天皇ノ大權ヲ行フ妨

憲法第三十一條戰時ニ於テ大權ニ於テ

ケトナルコナシ

例之バ善良ナル船長ハ颶風其他ノ變災ニ際シ
安全ニ運搬スベキ荷物ノ投棄ハ以テ全船ノ危
難ヲ救フニ必要ナル場合ハ其荷物ヲ投棄スル
權利アルガ如シ

憲法第三十二條

又軍人ハ別ニ軍法軍令ノアルアリ此ニ抵觸
セザル範圍内ニ於テ憲法第二章ノ規定ヲ適
用セラルベシ

憲法第二章ハ以下第二項第三項ニ掲クル權利
義務ノ事ニ屬ス

憲法第十九條以下第三十條

第二項 臣民ノ權利

憲法上臣民ノ權利トシテ列舉シタルモノハ左

ノ數種ニ過キス蓋シ此等ノ權利ハ重大ニシテ
妄リニ侵サ、ラシメンガ爲ニシテ決シテ此他
ノ權利ヲ認メザルニアラズ

但シ此等ノ權利ト雖モ皆法律ノ範圍内ニ於テ
保障セラル、モノナレバ特ニ法律ノ規定ニ從
ヒ其權利ヲ奪ハル、コアルハ又不得止所ナリ

例之ハ臣民ハ家宅ニ侵入セラレ、コナシト雖
モ犯罪ノ證據ヲ隠匿スル嫌疑ヲ以テ豫審判事
家宅搜索ヲ行フ場合ノ如シ

(一) 文武官ニ任セラレ其他ノ公務ニ就ク

明治維新以前ハ門閥ヲ以テ官ニ配シ秀才尙其
門ニアサレバ高官ニ昇ルコト得ズ
改革ノ後之ヲ廢シ臣民タルモノ法律ノ條件ヲ

充スニ於テハ均ク文官又ハ武官ニ任セラル是レ臣民公權ノ一ナリ

(二) 居住及ヒ移轉ノ自由

維新以前人民ヲ以テ土地ノ付從物ノ如ク藩政ノ頃各國疆ヲ畫シ各關ヲ設ケ人民本籍ノ外ニ移住ヲ許サズ

改革ノ後此制限ヲ廢シ法律ヲ以テスルノ外自由ナルコトヲ公認セリ

(三) 逮捕監禁審問處罰ヲ受ルコトナシ

維新前ハ別ニ制規ナキ爲メ武士ハ切捨御免ナゾ甚シキ亂暴モアリシ或ハ拷問ヲナシ或ハ臨機ニ捕縛スル等人民ノ心ヲ安ニスルノ日ナカリシ

(四) 裁判官ノ裁判ヲ受ル權ヲ奪ハルルコトナシ

改革ノ後法律ニ據ラサレバ人身ノ自由ハ制限セラレザルコトヲ保障ス若シ官吏法律ニ依ラスシテ逮捕監禁審問處罰ヲナサバ刑罰アリ况ヤ人民各自ノ間ニ於テヤ刑法二百七十八條乃至二百八十條二百八十二條

裁判官ハ他ノ官威ノ牽制ヲ受ケサル様ニ終身官トシテ刑法又ハ懲戒裁判ノ判決ニヨラザレバ免職スルコトヲ得ズ

其位置強固ニシテ公平無私ノ判決ヲ下スコトヲ得ルモノナレバ此ニ依ルハ即チ人權ノ安固ヲ得ルナリ而テ臣民ハ此權ヲ奪ルコトナシ

(五) 住所ニ侵入セラレ及搜索セララルルコトナシ

通常人ハ勿論行政司法警察收稅等ノ官吏ト雖モ主人ノ承諾ナク又ハ法律ノ規定ニヨラズシテ居室ニ侵入セララル、コトナシ此ヲ犯ストキハ刑罰ニ處セラル(刑法第七十一條以下)

故ニ古昔行ハレシ家サガシ等ハ本人ノ承諾ナク行フヲ得ズ

法律ノ規定ニ從フキハ家宅搜索セララル場合アルハ勿論ニシテ例之刑事訴訟法第四百四條ノ規定ノ如キ是ナリ

(六) 信書ノ秘密ヲ侵サルルコトナシ

是又法律ノ範圍内ニ於テ保障サル、ナリ故ニ例之ハ刑事訴訟法第一百三條ノ如キ其他戰時

(七) 所有權ヲ侵サルルコトナシ

ニ際シ法令ノ規定ニ從ヒ開封セララル、場合ハ不得止ナリ此等ノ場合ノ外信書ノ秘密ヲ犯シタルモノハ刑罰ニ處セラルベシ

所有權ト雖モ亦國家ノ保護ニヨリ成立スルモノナレバ又國家公益ノ爲ニハ制限ヲ受ク但シ此等ノコトハ法律ノ規定ヲ以テセザレバ侵シ得ザルコトヲ保障スルナリ
(土地收用法及ヒ鑛業條例等參看)

(八) 信教ノ自由ヲ有ス

即チ宗教自由ナリ
本書第一編第二章(二)ノ部ニ於テ法律ノ關スル所ハ人ノ行爲中社會共同生存ニ必要ナル關係

アル部分丈クナリト云ヘリ即チ宗教モ安寧秩序ヲ妨クス及ヒ臣民タルノ義務ニ背カサル限リニ於テ自由ナリ即禮式布教演說集會結社等ニ至リテハ一般ノ規則ニ從ハザルヘカラズ神佛ヲ口實トシテ憲法並ニ國法ニ背クヲ許サス故ニ革新ノ要ハ左ノ數點ニアリ

- 一 信仰ヲ命セサルコト(國教トセズ)
- 二 宗教ヲ公權ニ關セシメズ
- 三 禮式ニ干渉セズ
- 四 届出ヲ命令セズ

但シ行政上統計表調成ノ爲便宜届出ヲ命スルコト等ハ格別ナリ

(九) 言論著作印行集會結社ノ自由ヲ有ス

言論著作以下此等ノモノハ吾人ノ思想ヲ他人ニ傳エ及ヒ其他凡テ勢力ヲ行フニ付テ尤モ銳利ナル器關ナルガ故ニ之ガ自由ヲ保護シ法律ヲ以テスルニ非ラザレバ制限セザルヲ示スナリ

(十) 請願ノ權

請願ヲナスニ付相當ノ敬禮ヲ守ルベキコト及ヒ其制規ニ從フヘキコト勿論ナリ

請願ヲ許ス理由ハ左ノ如シ

- (一) 歴史上ノ理由ハ彼ノ 孝徳天皇ノ卍鐘ヲ懸ケ置テ設ク諫言愛訴ノ道ヲ開キ玉ヒシヲ始トシ明君必ス此ニ則ル
- (二) 民情ヲ疏通シ衆思ヲ集メ鴻益ヲ廣ム

(三) 目今帝國議會以下公議開設ノ設アルモ尙匹夫

匹婦疾苦ノ訴ト父老獻芹ノ微衷トテ九重ノ上

ニ達セシメ各個人ヲシテ處ヲ得サルヲナカラ

シメントス

詩曰蕩蕩ニ問ヘ

第三項 臣民ノ義務

憲法第二十條
第二十一條

憲法上臣民ノ義務トシテ規定セシモノハ左ノ
二ケノミ是即其重要ナルモノヲ示スニ過キズ
爰ニ盡ルモノト誤ルヘカラズ
(一) 法律ノ定ムル所ニ從ヒ兵役ノ義務ヲ有ス

臣民ハ國家ノ分子タルヲ前編論スル如シ其分
子ガ其國ノ生存並ニ獨立光榮ヲ守ル即チ所謂

國家ノ干城タル役ニ服ス即チ兵役ナリ

一般臣民ガ兵役ノ義務アル右ノ理由ニヨリ當

然ナルベシト雖モ更ニ左ノ理由モアリ

(イ) 一般ニ志氣ト身體ヲ教養ス

(ロ) 一般ニ雄武ノ風ヲ保持シ將來ニ睡眠セシメ

ズ常ニ自治ノ資料ヲ備フ

(二) 法律ノ定ムル所ニ從ヒ納稅ノ義務ヲ有ス

納稅ハ國家ノ分子タル臣民カ其國家生存(共同)

ノ必要ニ供スル費用ヲ分擔シテ納ムルモノヲ

云フ生存ノ字ニ拘泥スベカラズ既ニ生存アラ

バ其光榮幸福ノ増進ハ勿論其付帶タルベシ

第三編 統治權各種ノ作用並ニ

各機關

第一章 總論

統治權ハ唯一ナリ然レモ其爲ス所ノ作用ニヨ
 リ其名義ヲ附スル事講學上ノ便ノミニアラズ
 憲法ノ上ニモ其區別判然タリ例之第五條ニ天
 皇ハ帝國議會ノ協贊ヲ以テ立法權ヲ行フ之ヲ
 換言スレバ統治權ノ帝國議會ノ協贊ヲ以テ行
 ハル、モノハ即立法權ナリト云フニ等シ今此
 類ヲ推シテ類別ヲナス是レ本編ノ目的ナリ

爰ニ一ノ疑問アリ(統治權憲法上ノ規定ノ外尙

憲法以外ノ大
 權

大權アリヤ即チ憲法上ノ大權ノ外ニ大權アリ
 ヤ如何
 或曰憲法ノ制定ハ統治權ヲ設定シタルニアラ
 ズシテ單ニ之ヲ明示シタルニ過ギズ故ニ憲法
 ニ規定セザルガ故ニ無之トハ斷言シ難シ果シ
 テ然ラバ憲法以外ニ大權アリ
 或曰立憲政體ハ統治權ノ作用ヲ明劃シ各機關
 ヲ分配シ各其領域ヲ犯サ、ラシムルモノナリ
 果シテ然ラバ憲法以外ニ大權ナシ
 兩說各理由アリ此等詳細ノトテ論ズルハ他日
 ニ讓ル本書大意ノ其暇ナキ所ナリ

第二章 大權作用

大凡政治ノ事ハ凡テ大權ニ基ヒセザルナシ然レモ爰ニ大權作用トシテ立法作用行政作用司法作用ト區別スルハ即立法作用以下ノモノハ各政治機關ノ協賛又ハ手續ヲ經ルヲ要スルモ憲法上ノ大權作用ナルモノハ專ラ至尊ノ專斷ニ委シ敢テ政治機關ノ參與權ヲ認メサルモノタルヲ示スナリ

政治機關ノ權限ヲ認ムルヲナク一切ノ政務ヲ凡テ大權作用ニノミ委スルハ是即專制政治ナリ

君主ハ或ル統治權ノ作用ハ專斷シ或ル作用ハ政治機關ノ贊助又ハ或ル形式ヲ經タル上ニ行

フ即チ機關ノ權限ヲ認ムルモノ是即チ主憲君主政治ナリ

立憲政體必ズシモ君主政體ニ限ラズ從テ君主ナキアリ又君主ノ大權ヲ認メザルアルベシト雖モ今專ラ我國憲ニ基キ立論ス

立法事項ニシテ大權作用ニシテ入ルモノノ憲法第八條

大權作用ニ屬スヘキ事項ハ憲法ニ明定シ立法作用ヲ以テ侵サマラシム然レドモ事項ヨリスレハ立法事項ナルモ議會閉會ノ場合ニ於テ公共ノ安全ヲ保持シ又ハ災危ヲ避ル爲緊急ノ必要ニヨリ議會ノ協賛ヲ經ズシテ法律ニ代ル敕令ヲ發スル大權アリ此ヲ緊急敕令ノ大權ト云フ

或曰此敕令ハ立法作用ノ畧式ナリ何トナレハ法律ヲ變更スルニハ法律ナラザルベカラズ然ルニ此敕令ハ法律ノ手續ナクシテ法律ヲ變更スル力アレハナリ

或曰此敕令ハ行政命令ノ特例ナリ何トナレバ大凡命令ハ大權命令ノ外ハ總テ行政命令ナリ行政命令ハ法律ヲ變更スルヲ得ザルモノナルニ此命令ハ法律ヲ變更シ得ベケレバナリ或者ノ説ハ統治權ヲ立法又ハ行政作用ノ一ニ歸セントスルヨリ起ル今ヤ統治權ノ作用ハ立法行政司法ノ外ニ大權作用アリ大權作用中ニハ或場合ニハ立法事項ヲ敕令ヲ以テシテ法律ニ代ル効力ヲ備ヘシムルヲアルヲ知ラバ何ゾ

法律ニ代ル敕令ヲ發スルニハ左ノ條件ノ具備スルヲ要ス(次章法律ニ代ル命令ノ部參照)

- (一) 公共ノ必要ニ因ルヲ
- (二) 公共ノ安全ヲ保持シ又ハ其災厄ヲ避ル爲ナルヲ

即チ保持スルカ避ル爲ナリ換言スレバ消極的ニテ積極的ナラザル場合ヲ要ス若シ幸福ヲ増進セントスルガ爲ナル場合ハ憲法第九條ノ行政命令ニ屬シ緊急敕令ニ入ラズ

(三) 緊急ノ必要アルヲ

是レ必要ノ程度問題ナリ寧ロ意見問題ナリ然レモ免ニ角其必要ノ程度が緊急ナラザルベ

カラズ

(四) 帝國議會閉會ノ場合ニ於テスヘキコト

若シ議會開會中ナルモハ必ズ議會ノ協賛ヲ經テ立法作用ヲ以テセサルベカラズ此勅令ヲ以テスルコトナシ

憲法上ノ大權事項左ノ如シ

憲法第十條

官職ノコトモ憲法又ハ他ノ法律ニ於テ別ニ定メタルモノ例之バ司法權ハ裁判所ヲシテ行ハシムルコトヲ憲法五十七條ニ定メ而テ裁判所構成法ヲ以テ職務權限ヲ定ムル等如此特例ノモノハ此内ニ包含セズ但シ凡テ特別ニ定メナキモノハ凡テ此通則ニ從フ

(一) 行政各部ノ官制ヲ定ムルコト

官制ハ政務ノ分配及ヒ職司ヲ定ムルナリ行政ハ大權及ヒ法律ノ範圍内ニ於テ國家ノ目的ヲ達スル爲ニ自由ニ處置スル權アリ而之ヲ立法部ノ下ニ偏セザラシムル爲ニ其編制ヲ國ノ元首ニ專斷シ政治機關ノ參與ヲ不要

(二) 文武官ノ俸給ヲ定ムルコト

俸給ハ官吏タル分限ヲ維持セシムル爲ニ之ニ相當スル手當ナリ議會ノ議ニ付セザルハ立法ノ下ニ偏セザラシムルナリ獨立ナラシメンガ爲メナリ

(三) 文武官ノ任免

人ヲ任用シ官職ヲ奉セシム一ニ皆至尊ノ大權

ニ出テザルハナシ大臣以下ノモノ未班ニ至リ
テハ其任免ヲ自由ニスルハ委任ニ包含スルナ
リ

憲法第十一條
第十二條第十
三條

第二 軍事ノ大權

(一) 陸海軍ヲ統帥ス

軍事ハ國家自衛ノ機關ニシテ通常國務ノ外ニ
特ニ編製統帥スルヲ要ス此ヲ統帥スルハ往古
ヨリ至尊ニ於テスルヲ原則トス

(二) 陸海軍ノ編成及常備兵額ヲ定ム

是又陸海軍ノ統帥ト同ク至尊ノ大權ニ屬シ議
會ノ干涉ヲ不許軍機統一ノ事ハ例之ハ身心ノ
敏活ハ精神ノ專ラナルヲ要スルガ如ク一ニ至
尊ニ於テ專斷ス

憲法第十三條

第三 外交條約ノ大權

(三) 宣戰講和ノ大權

宣戰講和ノ一機ニ臨ミ變ニ應シ籌策敏速國家
元首ニ專ラニセザレハ能ク果ス能ハズ是レ議
會其他ノ關與ヲ許サル所以ナリ

外交ノ一ハ前三(三)宣戰講和ニ於ルト理由ニ於テ
異ナラズ但シ條約ノ締結等國務大臣又ハ全權
公使ヲシテ取扱ハシムルハ大權タルニ妨ケズ
即チ至尊ノ命令ニヨリ爲スモノナレバナリ
國家ノ統治權ハ各獨立ナリ此獨立ノ各國權ノ
主宰者ノ資格ヲ以テスル協合約束之ヲ名ケテ
國ノ條約ト云フ
條約ハ至尊ニ於テ自由專斷シ議會ノ議ヲ經ル

ヲ要セズ然ラバ此條約ガ法律ト牴觸セシトキハ如何スベキカ

曰ク條約ニ牴觸スル法律ト法律ニ牴觸スル條約ト二者併立スルノミ

一ハ外國ト帝國ノ約束ニシテ一ハ國內ノ法律ナリ條約ハ成立スルモ國內ニ公布ナシタル上ニアラザレバ(外國トノ間ニハ完成有効ナルモ)臣民ニ對シテ執行サル、限リニアラズ而シテ條約ハ法律ト異ニシテ必スシモ公布スベキ限ニアラズ

要スルニ二者關係ト目的ヲ異ニスルガ故ニ二者ノ牴觸ハ特ニ條約ヲ改正スルカ國法ヲ改ムル迄ノ間ハ二者併立ス

憲法第十四條

第四 戒嚴令ノ大權

戒嚴ヲ宣告ス戒嚴ノ要件及効力ハ法律ヲ以テ之ヲ定ム

而テ憲法ハ此場合ニ於ル規定ヲナサズ法律ノ抵觸シタル場合ニ於テ新法ハ舊法ヲ廢スルカアルモノト似テ非ナリ

戰時又ハ國家事變ノ場合ニ於テ全國又ハ一地方ヲ警戒シ常法ヲ停止シ司法行政ノ一部ヲ一時軍事處分ニ委スル之ヲ戒嚴ト云フ其詳細ノ事ハ別ニ定ムル法令ニ依リ行フ

之ヲ大權ニ委シ議會ノ參與ヲ許サルハ外交又ハ戰時等ノ理由ト同ク機ニ處スルモノナルニ由ル

若シ圍ヲ受ケタル場合ノ如キ其地ノ司令官ニ
一時其處分ヲ爲サシメ然ル後奏上スルカ如キ
皆一時機務ニ處スルナリ

憲法第十五條

第五爵位勳章及其他ノ榮典ヲ授與ス

至尊ハ榮譽ノ源ナリ功ヲ賞シ勞ニ酬ヒ卓行ヲ
表彰スルハ國家ノ隆盛臣民ノ幸福ヲ厚スルニ
至ル所以ノ大典ヲ示スナリ
爵ハ公侯伯子男ノ五爵ナリ
位ハ從九ヨリ正一位ニ至ル
勳ハ大勳位以下勳八等ニ至ル
其他ノ榮典例之ハ從軍記章其他功級等ナリ
法律ハ人事百般ノ一切ヲ網羅シ盡スヲ得ズ

第六大赦特赦減刑及復權ヲ命ス

犯罪人ノ事情憫諒スベキモノ、法ノ及ハザル處
ヲ補フニ至尊ノ仁慈ヲ以テス是レ此大權ノ原
因ナリ
大赦ハ特別ノ場合ニ於テ人ニ關セズ或種類ノ
犯罪ニ關シ一般ニ赦スナリ例之ハ憲法發布ノ
時國事犯罪ヲ赦シタル如キ是ナリ
特赦ハ或特定人ニ其犯情ニヨリ其罪ヲ免スル
ナリ
減刑ハ宣告セラレタル刑ヲ減シテ輕クスルナ
リ例之ハ英照皇太后崩セシト一般ノ犯罪人ノ
刑四分ノ一ヲ減シタル如キ是ナリ
復權ハ剝奪セラレタル公權ヲ情狀ニ依リ復ス
ルナリ皆法令ノ欠點ヲ補フニ至尊ノ仁慈ヲ以

テスルノ意ニアラザルハナシ

第三章 立法作用

第一節 總說

第一 立法ノ意義

立法ノ二意義

立法ノ義ニ廣狹ノ別アリ議會ノ協賛ヲ經テ法律ヲ發スルハ勿論立法ナリト雖モ行政機關ヲシテ發セシムル行政命令及ビ緊急敕令ト雖モ皆國民ノ遵奉ズヘキ國法ヲ成スモノナレバ即其法ヲ立ルノ義ヨリ之ヲ立法ト云フ此ヲ廣義ノ立法ト云フ

此ニ反シ法律ヲ立ルノミチ立法ト云ヒ其他ノ

憲法第五條

命令ハ或ハ行政作用ト認メ或ハ大權作用ト認ム是レ狹義ノ立法ナリ

天皇ハ帝國議會ノ協賛ヲ以テ立法權ヲ行フトノ憲法ノ明文ニ依レハ是レ狹義ノ立法ヲ意味スルナリ

本章論スル所ノ立法作用モ狹義ノ立法作用ヲ論スルナリ

凡テ法律ハ帝國議會ノ協賛ヲ經ルヲ要ス

天皇ハ統治權ノ主體タルカ故ニ獨リ行政ノ中

極タルノミナラス立法ノ淵源ナリ

法ハ王言ナリ

主權ハ國ノ元首タル至尊ニアリ立法ノコト主

トシテ議會ノ權ニ歸スルガ如キハ我國憲ニア
ラズ議會ハ單ニ立法ニ參與スルニ不過

第二 立法事項即法律ノ範圍

立法事項ノ限

- (一) 憲法上ノ大權事項ニ屬スルモノハ法律ヲ以テ之ヲ規定シ及ヒ之ヲ變更スルヲ得ス(但シ其事項中別ニ法律ヲ以テ定ムルヲ明示シタルモノハ此限りニアラズ)是レ立法事項ニ對スル一ノ限界ナリ
- (二) 憲法ニ於テ法律ヲ以テ定ムル事ヲ明示シタルモノハ法律以外ノ命令ヲ以テ侵スヲ得ス是レ亦立法事項ニ付テ一ノ限界ナリ
- (三) 一度法律ヲ以テ定メタルモノハ又法律ヲ以

自由立法事項

- (四) テセザレハ變更スルヲ得ス是亦一ノ限界ナリ
- 以上三ケノ限界ノ外ニ於テ政治規則ヲ立ル如何ナルモノヲ行政命令ニ委任スベキ乎如何ナルモノヲ法律ヲ以テ定ムヘキ乎ハ專ラ政策ニ屬シ之ガ制限アルヲシ此ヲ自由立法事項ト云フ

人權ノ事ハ法律ヲ以テ規定スヘシ財産ノハ法律ヲ以テズヘシ自由ノハ法律ヲ以テスヘシト云フガ如キ又輕微ナルハ行政命令ヲ以テスヘシト云フカ如キハ皆政畧論ニシテ別ニ目的ニ依リ制限アルニアラズ輕微ノハモ法律ヲ以テシテ不可ナル限リニアラス

第三 立法行為即法律ノ制定

天皇ハ帝國議會ノ協賛ヲ以テ立法權ヲ行フ

天皇ハ法律ヲ裁可シ其公布執行ヲ命ス

法律ハ提案ニ始リ議決ニ備ハリ裁可ニ成リ公布ニ効力ヲ生ス(以下次節ニ讓ル)

憲法第五條第六條ノ上半

提案ノ權ハ政府並ニ貴族院及ヒ衆議院共ニ之ヲ有ス

議決ハ兩議院ノ議決アルヲ要ス一院ノ議決ハ未ダ議決ニアラズ何トナレバ帝國議會ハ兩院ヨリ成立スルモノナレバ一院ニテハ議會ノ成立ナクレバナリ

裁可ハ法律案ノ議決ヲ至尊ニ於テ認可スルナリ故ニ其法律決議案ヲ認可セザルコト又其權利

立ナクレバナリ

公布ハ臣民ニ遵行ノ効ヲ生セシムル所以ナリ

執行ハ司法行政ニ於テ實施スルナリ立法ト異ナル勿論ナリ

ナリ

第四 法律ト命令

法律ト命令

法律ハ凡テ帝國議會ノ協賛ヲ以テ發スル至尊ノ命令ナリ

命令ノ種類

命令ハ議會ノ協賛ヲ要セズ發スルモノニシテ其種類左ノ如シ

(一) 大權命令

是レ即前章ニ掲ケタル大權作用ヨリ發スル命令ナリ

(二) 法律ニ代ル命令

第三編 統治權ノ各種作用並ニ各機關 第三章 立法作用

全然法律ニ代ル限リニアラズ議會ノ承諾ナキ
爲ニ將來ニ向テ其効力ヲ失フコトアリ前章ニ論
シタル緊急勅令是ナリ
故ニ此勅令ハ事後議會ノ承諾ヲ經テ全ク法律
ト同一ノ効力ヲ有ス此勅令ハ次ノ會期ニ於テ
帝國議會ニ提出スヘシ若議會ニ於テ承諾セサ
ルトキハ政府ハ將來ニ向テ其効力ヲ失フコト
ヲ公布スヘキモノ也

憲法第九條

(三) 行政命令
大權事項及立法事項ニ屬セザルモノニシテ大
權及ヒ法律ノ範圍内ニ於テ法律ノ執行又ハ公
共ノ安寧秩序ヲ保持シ臣民ノ幸福ヲ増進スル
爲ニ發スルモノニシテ第四章行政作用ノ部ニ

於テ説明ス

第二節 立法機關即帝國議會

第一項 總說

天皇ハ帝國議會ノ協賛ヲ以テ立法權ヲ行フ

憲法第五條及
下三十三條以

凡テ法律ハ帝國議會ノ協賛ヲ經ルヲ要ス

全上憲法上ノ立法機關タルガ故ニ大權作用ヲ
以テ之ヲ左右スルコトナシ之ガ改廢ヲナスハ憲
法ノ改廢ナリ憲法ノ改廢ハ 天皇發案ヲナシ
議員三分ノ二以上ノ出席ヲ要シ三分ノ二以上
ノ多數ニヨリ決セザルベカラズ

憲法第七條

天皇ハ帝國議會ヲ召集シ其開會閉會停會及衆

第三編 統治權ノ各種作用並ニ各機關 第三章 立法作用

貴族院ニ解散
ナシ

議院ノ解散ヲ命ス

召集ナキニ自
ラ集會スル權
能ナシ

議會ハ憲法及ヒ法律勅令ニ於テ與エラレタル
外當然ノ權利アルコトナシ
召集令ノナキ内ニ自ラ集會スルノ權能ナシ
或國ノ如ク議會自ラ開議ヲ始ルガ如キハ我國
ノ國憲ニアラズ
故ニ議會ハ召集開會閉會停會凡テ統治權立法
作用ノ指揮ノ下ニ進退ス
解散ハ衆議院ノミニアリテ貴族院ニナキハ貴
族院ハ主要ノ部分世襲議員ヲ以テ構成スルニ
依ルナリ

憲法第三十三
條

帝國議會ハ貴族院衆議院ノ兩院ヲ以テ成立ス

故ニ一院獨立シテ議會ノ効力ヲ有セズ兩院ノ

憲法第三十四
條 貴族院令第
一條

貴族院ハ貴族院令ノ定ムル所ニ依リ皇族華族
及敕任セラレタル議員ヲ以テ組織ス

- 決議一致シテ初テ議會ノ決議ナリ
一院ノ決議ハ議會ノ決議ニアラズ
- 貴族院議員ハ左ノ種類ノモノヨリ成立ス
- (一) 高貴 即チ皇族及華族是ナリ
 - (二) 國家ノ功勞者 即チ國家忠勤功勞アルニ
ヨリ敕任セラレタルモノ
 - (三) 學識 即特別ノ智識ニヨリ敕任セラレタ
ルモノ
 - (四) 富豪 即多額納稅者互選ヨリ勅任セラレ
タルモノ
- 或ハ世襲議員アリ 皇族並ニ公侯爵議員是ナ

或ハ選舉ニ因ルアリ 伯子男爵議員ノ如キ是ナリ
或ハ勅任ニ因ルアリ 功勞學識ヲ以テ勅任セラレ又ハ多額納稅者互選セシモノヨリ勅任スルモノ是ナリ
要スルニ以上ノモノヲ集ルハ慎重熟練忍耐等ノ風ヲ代表セシムルナリ

憲法第三十五條

衆議院ハ選舉法ノ定ムル所ニ依リ公選セラレタル議員ヲ以テ組織ス

衆議院ハ全國民衆ノ代表者ヲ得テ一般民意ヲ知ルナリ

憲法第三十六條同時ニ兩院ノ議員タル

何人モ同時ニ兩議院ノ議員タルヲ得ズ

ヲ得ズ

議會ヲ兩院ニスルノ旨趣ト相容レザレハナリ抑モ兩院ノ制ヲ採ルハ感情ニ傾奔スルノ勢ヲ防キ互ニ異ナル感想ヲ抱クモノヲ利用シテ多數壓制ヲ免カレ衆庶ノ意ノ中ヲ得ントスルニアレバ同時ニ兩端ヲ持セントスルハ許サハル所ナリ

選舉ト委任

選舉ト委任ヲ混スヘカラズ選舉ハ國家ニ對スル間接參政權ノ行使ニシテ代議ヲ委任スルニアラズ故ニ左ノ如キ差異ヲ生ス

- (一) 代議士ハ選舉人ノ意ニ從フヲ要セズ
- (二) 選舉人ハ代議士ヲ解任スルヲ得ズ

帝國議會ハ每年之ヲ召集ス

是レ即チ議會存在ノ實アルヲ憲法ニテ保證

憲法第四十一條通常會

スルナリ若シ夫レ召集ニ疎ナラバ或ハ有名無
實ニ歸セサルコトヲ保スベカラズ

憲法第四十二條
帝國議會ハ三ヶ月ヲ以テ會期トス必要アル場
合ニ於テハ敕令ヲ以テ之ヲ延長スルコトアルベ
シ

三ヶ月ニ限ルハ議ノ遷延ヲ防クナリ
勅命ヲ以テセサレバ之ヲ延長スルヲ不得勅命
ヲ以テスルモ此會期ハ短縮スルコトヲ得ス

憲法第四十三條
臨時緊急ノ必要アル場合ニ於テ通常會ノ外臨
時會ヲ召集スヘシ
臨時會ノ會期ヲ定ムルハ敕令ニ依ル

通常會期ヲ冬ニ於テスルハ會計年度ニ關係ア
ルガ故ナリ

憲法第四十四條

議會ノ開閉及延長並ニ停會ハ兩院同時ニ行フ
衆議院解散ヲ命セラレタルキハ貴族院同時ニ
停會セララルヘシ

然レハ臨時會ハ會計年度ニ不拘臨時ニ開ク

兩院ヲ同時ニスルハ議會ハ一院ニテ獨立スル

コトヲ得ザルモノナレバナリ

貴族院ニ解散ナキハ已ニ説明スル如ク世襲議
員ヲ以テ成立スレバナリ

憲法第四十五條

衆議院解散ヲ命セラレタルキハ敕令ヲ以テ新
ニ議員ヲ選舉セシメ解散ノ日ヨリ五ヶ月以內
ニ之ヲ召集スヘシ

是亦議會永久ノ保證ヲ與フルナリ萬一解散シ
テ召集ノ時期ヲ定メサルキハ政府ノ爲ニ廢サ

レタルト殆ト同一ノ結果ヲ見ルコトナキニアラズ

憲法第四十六條
第四十七條

兩議院ハ各其總議員三分之一以上出席スルニアラザレバ議事ヲ開キ議決ヲナスコトヲ得ス
兩議院ノ議事ハ過半數ヲ以テ決ス可否同數ナルキハ議長ノ決スル所ニ依ル

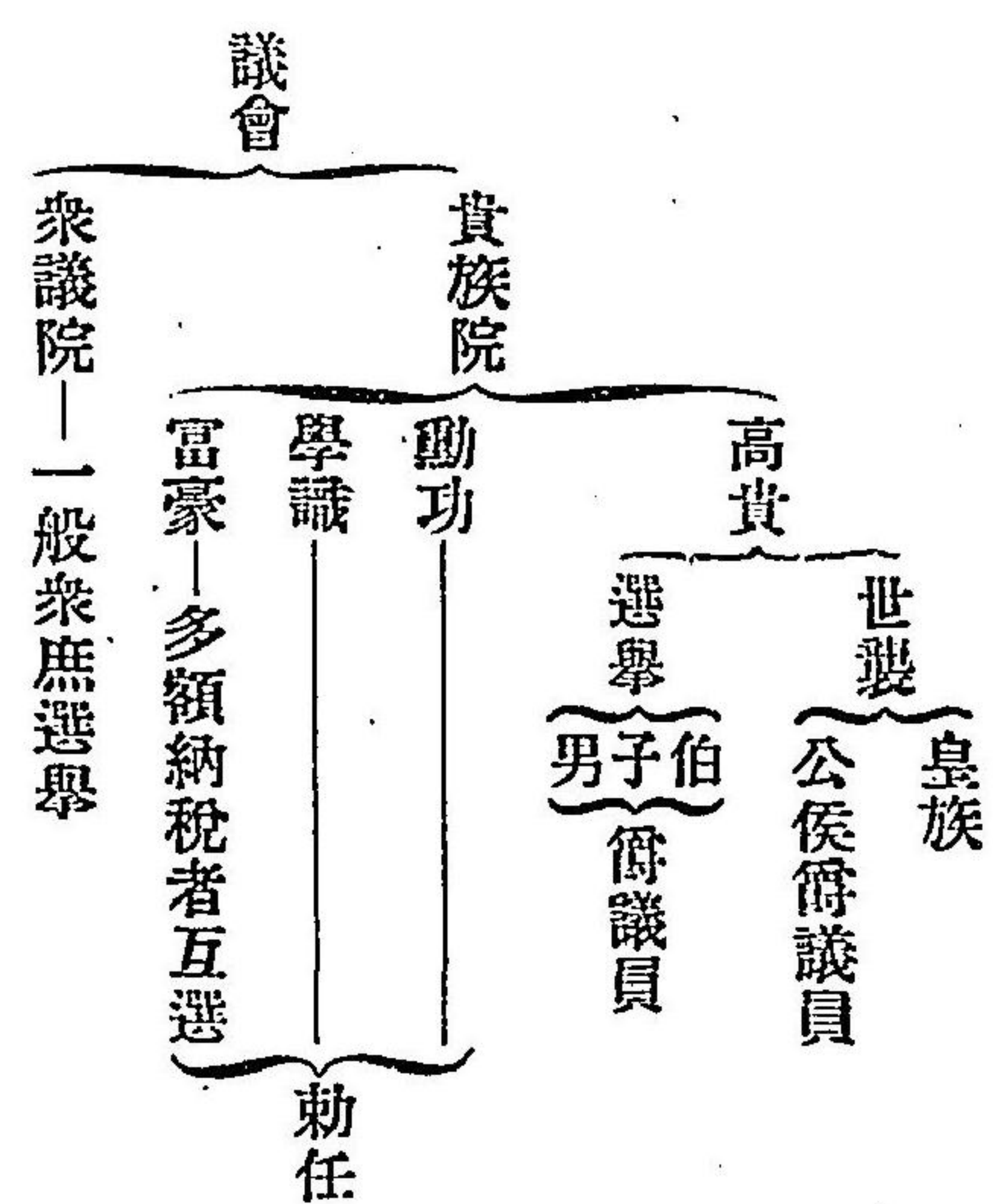
此ハ是レ通常ノ議事ニ付テノ定則ナリ若シ憲法七十三條ノ場合ノ如キハ此例外ナリ

憲法第四十八條
公開
秘密會

兩議院ノ會議ハ公開ス但シ政府ノ要求又ハ其院ノ決議ニ依リ秘密トナスコトヲ得

公開スルハ公正ヲ保セントスル而止ニアラズ之ヲ公ニスルノ利ハ之ヲ秘密ニスルヨリ優サルナリ故ニ之ヲ公ニスルノ不利アラバ政府ノ

要求ニ因リ又ハ議決ヲ以テ秘密會トスヘシ例之ハ外交人事職員委員ノ選舉或ル財政兵事治安行政等ニ關シ往々秘密ヲ要スルコトアルヘシ



第二項 議會ノ職權

第一 總論

議會ノ議定權ノ及フ區域ハ憲法ニ於テ特ニ大權事項ニ掲ケタルモノ、外政務ノ一般ナリ

政務ノ一般ト云フモ元ヨリ立法事項ニ關スルハ勿論ニシテ政務ノ施行權ナキハ明ナリ
立法事項ノ外ト雖モ必スシモ議決セザルニアラズ例之ハ貴族院ガ至尊ノ諮問ニ答フルノ決議並ニ衆議院ガ答禮ヲ決議スルガ如キ立法事項ニアラズ要ハ只概言スルノミ

議院ノ職權ト議員ノ權利

議院ノ職權ト議員ノ權トヲ混スヘカラス議員ノ權利ニ付テハ議案討議ノ權ハ勿論ナレモ其他ノ權ハ左ノ二ケノ特權ヲ憲法ニ於テ認タリ
(一) 兩議院ノ議員ハ議院内ノ發言及ヒ表決ニ

憲法第五十二條

憲法第五十三條

特權ノ理由

付責ヲ負フヲナシ
但シ議員自ラ演說刊行筆記其他ノ方法ニテ公布セシキハ格別ナリ
(二) 兩議院ノ議員ハ議會開期中其院ノ承諾ナク逮捕セラレルヲナシ
但シ現行犯罪又ハ内亂外患ニ關スル罪ニ付テハ格別ナリ
以上ノ特權ヲ認ムルハ主トシテ左ノ理由ニ基

- (イ) 議院ヲ尊重シ自治ニ任スルナリ背德陋劣議院ノ軀面ヲ傷フモノハ議院自ラ處分スヘシ
- (ロ) 議員ノ言論ヲシテ充分ノ價直アテシメン

トスルナリ

議員ノ討論ハ異同相磨シテ別ニ光澤ヲ放
タントスルナリ司法ノ干涉ヲ可成避ケン
トスル所以ナリ

質問ノ權

議員ノ權ハ更ニ議院法ニ於テ認メタルモノアリ
其重ナルモノ左ノ如シ

- (一) 三十人以上ノ賛成ヲ得テ政府ニ質問ヲナスノ權

質問ハ簡明ナル書面ヲ作り賛成議員ト連印シ

議長ニ差出ス

議長ハ政府ニ送り國務大臣ハ答辯ヲナシ又ハ
答辯セザル理由ヲ明示ス

- (二) 質問ニ對シ答辯ヲ得又ハ得サルトキ質問

- (三) ノ事件ニ付建議ノ動議ヲナスコト
以上ノ外二十人以上ノ賛成ヲ得テ懲罰ノ
動議ヲナシ又ハ委員トナル等ノコトアレハ
今畧之

詳細ノコトハ本書ノ目的ニアラズ只議院ノ權ト
議員ノ權ト似テ非ナル點ヲ示スニ過キス

第二 議會ノ職權

議會ノ職權其重ナルモノ左ノ如シ

- (一) 憲法ノ條項改正案ノ議決

我憲法ハ欽定憲法ナリ議會ニ於テ此カ改正ヲ
企ツルコトヲ得ス

然レモ欽定憲法ト雖モ將來時世ノ變遷ニ伴ハ

憲法第七十三
條

ザル條項アルニ於テハ此カ改正ヲナサ、ルハ却テ憲法ナキニ劣ラントス
蓋如此場合ノ生スルニ於テハ至尊ニ於テ發議ノ權ヲ執リ之ヲ議會ノ議ニ付スルナルヘシ
此場合ニ於テ兩議院ハ憲法七十三條ニ由リ議員總員三分ノ二以上ノ出席ト三分二以上ノ多數ヲ以テ改正ヲ議決ス
是レ議會ノ有スル重大ナル職權ナリ
但シ憲法ノ改正ハ攝政ヲ置クノ間ハ爲シ能ハサルトニ屬ス

憲法第三十七條

(二) (イ) 法律案ノ議決
(ロ) 法律案ノ提出

(イ) 天皇ハ帝國議會ノ協贊ヲ以テ立法權ヲ行フ

凡テ法律ハ帝國議會ノ協贊ヲ經ルヲ要ス
議會カ協贊ヲナスノ手續ハ即議決ヲナシ之ヲ奏上スルナリ

(ロ) 法律案ノ提出ハ政府之ヲナスハ常ナルベシ
是レ常ニ政務ニ從事スルカ故ニ其法律ノ必要不必要ヲ直接ニ感スルカ故ナリ
然レモ兩議院モ政務ニ注意シ政府ヲ監視スルモノナルガ故ニ政府ノ注意セザル點ニ付法律ノ必要ヲ感スル場合ニ於テ之カ提案ヲナスハ當然ナリ

憲法三十八條ニ曰ク兩議院ハ政府ノ提出スル法律案ヲ議決シ及ヒ各法律案ヲ提出スルトテ得但シ一院ニ於テ否決シタル案ハ同會期中ハ

再ヒ提出スルヲ得スト其再ヒ提出スルヲ防クハ一ハ決議ヲ尊重シ一ハ一事ニ拘泥シテ遷延スルヲ防クナリ

(三) (イ) 豫算案ノ議決
(ロ) 決算ノ審査

(イ) 豫算ト法律ヲ混スヘカラズ即チ左ノ如キ差異アリ

豫算ハ一年毎ニ於ル行政官ノ遵守スヘキ規律會計ノ出入ノ算額豫定ナリ

法律ハ年毎ニ變更セズ永久ノ規則ヲ目的トスルヲ原則トス

豫算ハ法律命令ノ範圍内ニ於テスヘク從テ法律命令ヲ變更スルヲ得ズ即チ法律命令ノ制

憲法第六十四條第一項第四十七條

法律ト豫算ノ區別

限ヲ受ク

法律ハ如此ノ制限ナシ

右ノ結果ヨリシテ豫算ノ決議ノ場合ニハ左ノ制限ヲ受ク

憲法六十七條 憲法上ノ大權ニ基ツケル既定ノ歳出及ヒ法律ノ結果ニ由リ又ハ法律上政府ノ義務ニ屬スル歳出ハ政府ノ同意ナクシテ帝國議會之ヲ廢除シ又ハ削除スルヲ得ス

(一) 大權ニ基ク既定ノ歳出例之ハ行政各部ノ官制陸海軍ノ編制文武官ノ俸給外國條約ノ費用等

(二) 法律ノ結果ニ由リ例之ハ議院ノ費用議員

ノ歳費諸般ノ恩給年金等

(三) 政府ノ義務ニ屬スル例之ハ國債ノ利子國債ノ償還政府保證ノ民法上ノ辨償等ノ類ナリ

豫算ハ先ツ衆議院ニ提出スヘシ

法律ハ此制限ナシ

豫算修正ノ動議ハ三十人以上ノ賛成アルヲ要シ法律案ハ二十人以上ニテ足ル

豫算ヲ衆議院ニ提出シタルヒハ豫算委員ハ受タルヨリ十五日内ニ審査報告ノ義務アリ法律案ニ此制限ナシ

以上數ケノ差異ハ以テ豫算ト法律ノ區別ヲ知ルノ材タルヘシ更ニ之ヲ約言スレハ左ノ如シ

(一) 法律命令ニヨリ歳入歳出ノ目的及ヒ金額ノ定マリシモノハ議會ハ之ヲ豫算案ノ議決ヲ以テ變更スルヲ得ス

(二) 法律命令ニテ目的ヲ定メ金額ヲ定メサルモノハ金額ハ自由ニ決議スルモ豫算ヲ廢案スルヲ得ス

(三) 目的金額法律命令ヲ以テ定メナキモノハ自由ニ之ヲ議決スルヲ得ルナリ

(四) 決算ノ審査

政府ニ於テハ國家ノ出納決算ハ會計検査院ニ於テ検査確定シ其報告ヲ議會ニ提出シ議會ノ審査ニ便ス

豫算ハ議會ガ國家會計ノ初期ノ監督ニシテ

決算審査ハ會計ニ於ケル議會最後ノ監督也

(四) (イ) 皇室經費ノ増額ヲ要スル場合

(ロ) 國債並ニ豫算外ノ國庫負擔ノ契約及ヒ
繼續費等ヲ議決スルヲ

(イ) 皇室費ハ増額ヲ要スル場合ニ限り承諾ヲ要
スルハ蓋シ宮廷ノ一ヲ毎年彼此間議スルヲ
欲セサルニ依ル

(ロ) 國債並ニ豫算外ノ國庫負擔及ヒ繼續費ハ豫
算ノ如ク一年毎ニスルモノニアラス而決議
ヲ經ルヲ要スル理由ハ同一ナリ

(五) 豫算ノ欸項ニ超過シ又ハ豫算外ノ支出諾
否ノ決議

活社會ヲ治ムル統治權ノ作用ハ法律命令豫算

ヲ以テ律シ難キモノアリ從テ豫算ニ超過スル
ノ故ヲ以テ法令ノ運用政治ノ停止ヲナスヲ得
ザルハ明カナル事理ナリ

果シテ然ラハ豫算中ニ正條ナキノ理由ヲ以テ
政務ヲ廢スルヲ得サルヨリ當然生スル費用ヲ
支出スルハ當然政府ノ權利ニ屬ス然リト雖モ
此カ議會ノ承諾ヲ要セストセハ行政ノ必要ト
立法ノ監督トヲ調和スル所以ノ道ニ背キ亂費
ノ端ヲ開クナリ今此ヲ防ク爲ニ議會ノ承諾ヲ
要ストセリ

参考

議會承諾ヲナサ、ル時ハ政府ハ如何ニスヘ
キ乎憲法ハ此カ規定ヲ設クルヲナシ

憲法第八條ノ勅令ニ於ケル承諾ハ議會之ヲ拒ムルハ將來ニ向テ無効ナルコトヲ宣言スヘシ彼ハ將來ニ向テナスヲ得ヘシ然レモ此ハ既ニ會計上支出シ了リタルナリ將來ニ向テ無効ヲ宣言スルモ効ナキ處ナリ然ラハ議會ノ承諾ナキモ承諾セシモノト同一ノ結果ナル乎

此場合ハ一ノ政策問題ニ屬シ當路者ノ責任ヲ問フト否トニ關スルノミ

憲法第八條及
第七十條

(六) 緊急勅令諾否ノ議決

緊急勅令ニ二ケノ場合アリ第一ハ憲法八條ノ場合ニシテ第二ハ同法第七十條ノ場合ナリ第八條ノ場合ニ就テハ大權作用ヲ論スルノ部

ニ論シタリ

第七十條ニ曰ク公共ノ安全ヲ保持スル爲緊急ノ需用アル場合ニ於テ内外ノ情形ニ因リ政府ハ帝國議會ヲ召集スルコト能ハサルトキハ勅令ニ依リ財政上必要ノ處分ヲナスコトヲ得故ニ緊急勅令ニヨリ財政上必要ノ處分ヲナスニハ左ノ條件ヲ要ス

(一) 公共ノ安全ヲ保持スル爲ナルコト
(故ニ幸福増進ノ爲ナルコトハ此ニ入ラズ)

(二) 緊急ノ需用アル場合ナルコト
(故ニ緊急ナラザル需用ハ此ニ入ラズ)

(三) 内外ノ情形ニヨリ政府カ帝國議會ヲ召集スルコト能ハザルトキ

此點ハ第八條ト大ニ異ナル所ナリ第八條ハ
 議會閉會中ナレハ召集ヲ要セズ第七十條ハ
 召集シ得ラル、ナラバ召集スルノ義務アル
 モノナリ即臨時會ヲ開カザルベカラズ他ナ
 シ財政ノ處分ニ一層慎重ヲ加エタルナリ
 以上ノ條件具備スレバ勅令ヲ以テ財政上必
 要ノ處分ヲナシ得ヘシ議會ヲ召集シ能ハザ
 ル所ヨリ不得止ナスモノナルガ故ニ次ノ會
 期ニ於テ議會ノ承諾ヲ求メザルベカラズ
 參考

議會承諾セサルトキハ如何是レ又政府ノ
 責任問題ニシテ政界ノ當否ヲ問フニ至リ
 到底勢力ノ判決ニ委スルノ外ナシ

憲法第四十九條

(七) 天皇ニ上奏スルコト

兩議院ハ各天皇ニ上奏スルコトヲ得ル
 凡テ議案ハ最後ニ議決シタル議院ノ議長ヨ
 リ國務大臣ヲ經由シテ上奏ス
 各議院上奏セントスルトキハ文書ヲ奉呈シ
 又ハ議長ヲ以テ總代トシ謁見ヲ請ヒテ奉呈
 スルコトヲ得

議院ノ上奏勸諭ハ三十人以上ノ賛成アルニ
 アラザレバ議題トナスコトヲ得ス
 或ハ勅語ニ奉答シ或ハ慶賀又ハ吊傷ノ表辭
 ヲ上リ意見ヲ建白シ請願ヲ疏陳ス皆上奏タ
 リ

憲法第四十條

(八) 政府ニ建議スルコト

兩議院ハ法律ノ提案ヲナス權アリ從テ又其提案ヲ政府ニ促ス爲又ハ其他ノ事件ニ付各意見ヲ政府ニ建議スルコトヲ得但シ其採納ヲ得サルモノハ同會期中再ヒ建議スルヲ得ス是レ紛議強迫ノ恐ヲ避ルナリ

議院ノ建議ハ文書ヲ以テ政府ニ呈出スベシ建議動議ハ三十人以上ノ賛成ナケレバ議題トナスコトヲ得ズ

議員質問ヲナシ國務大臣ノ答辯ヲ得又ハ得サルトキハ議員ハ建議ノ動議ヲナスコトヲ得

憲法第五十條

(九) 臣民ヨリ呈出スル請願ヲ受ルコトヲ得

左ノ請願ハ之ヲ受ルコトヲ得ス

(一) 司法及ヒ行政裁判ニ干與スル請願

(二) 法人以外ノ總代人名義ヲ以テスルモノ

(三) 憲法ヲ變更スルノ請願

(四) 哀願ノ式ニ依ラズ請願ノ名義ニ依ラズ其形式ニ違フモノ

(五) 皇室ニ對シ不敬ノ語ヲ用ヒ政府議院ニ對シ侮辱ノ語ヲ用フルモノ

請願ハ議員ノ紹介ニヨリ議院ニ受取り請願委員審査シ規定ニ合ハサルモノハ議長ハ紹介議員ヲ經テ却下ス

請願委員ハ請願文書表ヲ作り其要領ヲ録シ毎周一回議院ニ報告ス

委員ノ特別報告ニヨル要求又ハ議員三十人以上ノ要求アルトキハ請願事件ヲ會議ニ附スヘ

シ採用ノ議決ヲナシタルトキハ意見ヲ付シ政
府ニ送り又事實ニヨリ報告ヲ求ム
兩議院ハ請願ニ付各獨立シテ互ニ關與セズ

議院法第九十
四條以下

(十) 議員ノ懲罰ヲナスコト

各議院ハ議員懲罰事犯アルルハ議長ハ先ツ委
員ニ附シ審査セシメ院ノ議決ヲ經テ之ヲ宣告
ス

各委員會又ハ各部ニ犯入アルルハ委員長及ヒ
部長ハ議長ニ報告シ處分ヲ求ム

懲罰ハ左ノ如シ

- (一) 公開シタル議場ニ於テ譴責ス
- (二) 公開シタル議場ニ適當ノ謝辭ヲ表セシム
- (三) 一定ノ時間出席ヲ停止ス

(四) 除名

但シ此除名ノ議決ハ出席議員三分ノ二以上
ノ多數ヲ要ス

又除名スルモ再選ノ妨トナルコトナシ

議員正當ノ理由ナク勅諭ニ規定シタル期日後
一週間内ニ召集ニ應セザルニ由リ又ハ議會委
員會ニ缺席スルカ又ハ請暇ノ期限ヲ過キタル
ニヨリ議長ヨリ特ニ招狀ヲ發シ此ヲ受取タル
後一週間内ニ出席セサル者ハ貴族院ハ出席ヲ
停止シ上奏シテ救裁ヲ請フヘク衆議院ハ除名
スヘシ

憲法第五十一
條

(十一) 兩議院ハ内部ノ整理ニ必要ナル規則ヲ定
メ及ヒ紀律警察權ヲ行フ

各議院開會中規律秩序保持ノ爲内部警察權ハ
議院法及ヒ議院ノ定ムル所ノ規則ニ依リ議長
之ヲ行フ

警察官ハ政府ヨリ派出シ議長ノ指揮ヲ受ク
會議中議員犯則及ヒ秩序ヲ亂ルモノハ議長之
ヲ警戒シ又ハ制止シ又ハ發言ヲ取消サシム此
命ニ從ハサルモノハ議長ハ當日ノ會議終ル迄
發言ヲ禁シ又ハ退場セシム

議場騷擾シ整理シ難キトキハ議長當日ノ會議
ヲ中止スルカ又ハ閉ツルヲ得

傍聽人妨害ヲナスモノアルトハ之ヲ退場セシ
メ又必要ナル場合ハ警官ニ引渡ス

傍聽席騷擾ナルトハ總テノ傍聽人ヲ退場セシ

ムルヲ得

議場ノ秩序ヲ亂ルモノアルトハ國務大臣政府
委員及議員ハ議長ノ注意ヲ喚起スルヲ得議
院ニ於テ皇室ニ對シ不敬ノ言語論說ヲナスヲ
得ス

議院ニ於テ無禮ノ語ヲ用非他人ノ身上ニ涉リ
テ論スルヲ得ス

議院又ハ委員會ニテ誹毀侮辱ヲ被リタル議員
ハ之ヲ議院ニ訴ヘ處分ヲ求ム私ニ相報復スル
ヲ得ス

(十二) 議員ノ請暇辭職ヲ許可シ及ヒ補欠選舉ヲ
求ムルヲ

各議院ノ議長ハ一週間以内ノ請暇ヲ許可スル

議院法第八十
一條以下

一ヲ得レモ一週間ヲ越ルモノハ議院之ヲ許可
スルナリ期限ナキノ請暇ハ議院ト雖モ之ヲ許
可スルヲ得ス

衆議院ハ議員ノ辭職ヲ許可スルヲ得貴族院
ハ救裁ニ依ル

衆議院缺員ヲ生シタルハ議長ヨリ内務大臣
ニ通牒シ補缺選舉ヲ求ム

(十三) 議員資格ノ有無ヲ議決スル

衆議院ハ裁判所ニ於テ當選訴訟手續ヲナシタ
ルモノハ審査スルヲ得ス

貴族院ハ議員ノ資格及選舉ニ關スル爭訟ヲ判
決ス

議員ハ其無資格ノ定ル迄ハ列席發言ノ權アリ

議院法第七十八條

以上ノ外兩議院ガ政府ニ對シ報告又ハ文書ヲ
求ムルヲ及ヒ兩議院協議會等詳細ノ事ハ煩ニ
涉ルヲ以テ省之

第三 兩議院ノ特權

各院其議員ノ出所ヲ異ニシ又其人物ニモ差異
アルヲ以テ自然又權利上ニモ差異ナキニアラ
ス今其一ニ之ヲ舉示ス

- (一) 豫算ハ必ス先ツ衆議院ニ前ニ提出スヘシ(貴族院ヲ後ニス)

大凡豫算ハ政府ノ財政ト民衆ノ生計ト權衡ヲ

憲法第六十五條

得ノコトヲ要ス乃チ衆民ノ公選ニ依リ成立スル衆議院ニ最モ切要ナルモノナリ是レ此規定アル所以ナリ

憲法第七條末
第四十四條
第四十五條
第四十六條
第四十七條

(二) 貴族院ハ解散セララル、コナシ(衆議院ハ解散セララル)

解散ハ新選ノ議員ニ更ニ輿論ヲ問フトスルナリ故ニ衆議院ハ解散シテ新ニ選舉セシムルモ貴族院議員ハ皇族及ヒ公侯爵及ヒ勳功學識等ノ爲メ終身議員ヲ以テ成立スルヲ以テ停會セララル、モ解散セラレズ

憲法第三十四條
第三十五條
第三十六條
第三十七條
第三十八條
第三十九條
第四十條

(二) 貴族院ハ天皇ノ諮詢ニ應シ華族ノ特權ニ關スル條項及ビ貴族院令改正ノ議決ヲナス特權アリ

右ノ外議員資格ヲ判決調査スル場合等詳細ノコトハ畧之

第四章 行法作用

行政ト司法

爰ニ行法作用ト云フハ立法作用ニ對シテ行政司法ノ兩作用ヲ總稱シタル名ナリ
國家統治ノ大權ガ立法的作用ヲナシ此ガ目的ヲ達スル爲ニナス所ノ作用ハ凡テ行政作用ニシテ司法權ハ行政作用中ノ獨立作用ニ外ナラズ通常此ヲ區別シテ行政ト全ク別種ノ如クナスハ單ニ形式手續ノ區別ニ拘泥シテ深ク本質ヲ極メザルノ至ス所ナリト論スルモノアリ

然レモ所謂行政ト司法ハ同一ナリト云フニア
ラズ以下論スル所ノ區別ハ論者モ之ヲ認ムル
ナリ

行政司法ノ區別

- (イ) 司法ハ特定事實ニ對シ判斷ヲナシ特定當事者間ノミニ効力ヲ有ス
- 反之行政ハ行政處分ヲ除ク外ハ一般ニ對スル効力アルヲ常トス
- (ロ) 行政ハ大權及ヒ法令ヲ施行シ公共ノ安寧秩序ヲ保持シ人民ノ幸福ヲ増進スル爲便益ヲ主トシテ經營處分シ法令ヲ以テ制限セザル以上ハ國家ノ目的ヲ達スル爲制限セラレズ政府之ヲ行フ

司法ハ權利ノ侵害ニ對シ法令ヲ標準トシテ其當否並ニ刑罰ヲ判斷シ便益ヲ斟酌セズ法令ニ從ヒ裁判所之ヲ行フ(侵害ノ文字ニ不拘泥防禦モ包含ス)

行政ハ社會活動ノ必要ニヨリ處分スルモノニテ法令ハ單ニ超越スヘカラサル限域ヲ示スニ過キス
司法ハ法令ノ外社會活動ノ便益ノ爲ニ處分ヲ變スルヲ得ス

故ニ行政アリテ司法ナケレバ各人ノ權利ハ社會便益ノ爲ニ侵害セラレントシ司法アリテ行政ナケレバ社會ノ便益發達ハ途ニ進歩ヲ見ザラントス兩制各其宜キニ處シ各侵犯スルヲナクシテ互ニ牽制シ以テ統治ノ中庸ヲ得ントス

形式的區別

- (ハ) 形式的區別ニ於テ左ノ如キ差異アリ
- (一) 司法權ハ天皇ノ名ニ於テ法律ニ從ヒ裁判所之ヲ行フ
 - (二) 行政ハ政府之ヲ行フ(政府ハ代務所アリ各省地方廳等)
 - (三) 裁判官ハ獨立シテ法律ヲ解釋シ上官ノ訓令ニ不從
 - (四) 行政官ハ上官ノ解釋指揮ニ從フ
 - (五) 裁判ハ法律上ノ手續ニ依ラザレバ之ヲ爲スヲ得ス
 - (六) 行政ハ別ニ法律ニ定メシモノ、外制限アルヲナシ

スタイン博士ノ行政司法ノ區別

スタイン博士ハ行政司法ノ區別ニ付左ノ如ク説ケリ

政府一般ノ事務ヲ或ハ稱シテ行政法ト云フ而其特ニ稱シテ司法ト異ナル所以ヲ知ント欲セハ先ツ私權ト公權トノ區別ヲ知ラサルヘカラズ

抑モ國家ノ各一個人ヲ一個人トシテハ其意思ハ自由ナレトモ國家全體ニ對シテハ自由ニアラス是ニ於テ各一個人ノ權利上ニ二重ノ關係ヲ生ス

第一ニ各一個人ヲ一個人トシテハ自由ナルカ故ニ他ノ一個人ノ爲ニ其意志ヲ制セラル、ノ理ナキ所ヨリ起ル人々交際ノ關係ヲ稱シテ私

權ト謂フ此權ノ巨細ハ各人カ自由自由ノ一個
人トシテ備フル所ノ性質ニ依テ定マレリ
第二ニ各一人個ヲ國家ノ一人トシテハ國家全
體ノ意思ノ爲ニ其一個ノ意思ヲ曲ケサルヲ得
ス即此理ヨリシテ起ル個人ト國家トノ關係ヲ
稱シテ公權ト云フ公權ノ巨細ハ國家全體ノ決
意ヲ實行スル機關ノ性質ニ依リテ定マリ憲法
ト法律トニ於テ之ヲ明記セリ
一個人ヲ一個人トシテハ自由自由ナル關係ヨ
リ之ヲ言ヘハ甲ノ一個人ノ爲ニ乙ノ一個人ノ
意思ヲ曲ケシムルヲ正當トセズ而テ獨リ甲ト
乙トノミナラズ丙丁以下萬人ニ於テ他人ノ爲
ニ意思ヲ曲ケザルノ資格アルハ同一ナラザル

ヲ得ズ即チ私權ノ原理ハ同等ニ在リ之ニ反シ
テ公權ノ原理ハ不同等ニ在ルヤ明白ナリ何ト
ナレハ國家ハ上ニ立チ個人ハ下ニ立ツヲ以テ
下ハ上ノ意ニ從ハサルヲ得サレバナリ
人々同等ノ間ニ存立スルノ權利ニ關シテ生ス
ル爭論ハ各人ノ上ニ立ツ第三者即チ政府ニ於
テ之ヲ裁決スルヲ順トス之ニ反シテ不同等ナ
ル國家ト人民ノ間ニ於テハ固ヨリ國家全體ノ
意ヲ先キニシ個々人民ノ意ヲ曲ケテ之ニ從ハ
シムルノ順ナルカ故ニ其間ニ政府ノ裁決ト云
フヲ有ルヲ得ス只タ國家ノ意(即法律)ヲ人民ニ
施行スルノ一順アルノミ是レ即チ司法(レヒト
アフレケ)ト行政(レヒト、フヘルウアルツング)ト

伊藤侯爵ノ司法
ノ後解

ノ異ナル所以ナリ即チ私權ハ裁判ス可ク施行
 スヘカラズ公權ハ施行スヘク裁判スヘカラザ
 ルナリ是ニ至テ司法事務ノ他省ノ事務ト異ナ
 ル所以ハ明瞭ナリ

伊藤侯爵ノ憲法義解ニ曰ク司法權ハ法律ノ定
 ムル所ニ依違シ正理公道ヲ以テ臣民權利ノ侵
 害ヲ回復シ及刑罰ヲ判斷スルノ職司トス云々

ト

右スタイン博士ノ司法ハ私權ニノミ關スルカ
 如キ又伊藤侯爵ノ臣民ノ權利ノ回復ノミノ如
 ク解スルハ共ニ完キテ欠クモノナリ余ハ以下

第二節ニ於テ之カ定解ヲナスヘシ

第一節 行政作用

(一) 行政行為

行政トハ大權及法律ノ範圍内ニ於テ國家ノ
 目的ヲ達スル爲政府ヲシテ(政府又ハ代務廳)
 施行セシムル所ノ一般ノ統治行為ナリ

政府ヲシテ施行セシムル云々是レ即チ司法並
 ニ立法ト區別セシガ爲ナリ夫レ司法ト雖モ法
 律及ヒ大權ノ範圍内ニ於テナス所ノ統治行為
 タルコト失ハズ只裁判所ヲシテ行ハシムル其
 二者ノ性質ノ異ナル前節已ニ論スルカ如シ

其行為ハ其行政機關内ニ行ハル、モノアリ
 又機關外ニ對シテ行ハル、モノアリ其内ニ
 行ハル、モノハ監督訓令ニシテ外ニ行ハル

、モノハ命令及ヒ處分ナリ

監督、訓令、命令、處分

行政監督ハ行政機關ノ行政行為ヲ統一シ其實行ヲ全タカラシメ併テ豫防的ノコトヲ行フ訓令ハ法律命令ノ解釋ヲ示シ事務ノ規定ヲ指揮ス共ニ行政ヲナス内部的ノ行動タリ命令ハ一般ニ遵守スヘキ標準ノ爲ニ發スル規則ナリ

行政處分ハ特定事實ニ對シ特定ノ行政行為ナリ共ニ行政機關外ニ對シテ其行動ヲナス

憲法第九條

(二) 行政命令

天皇ハ法律ヲ執行スル爲ニ又ハ公共ノ安寧秩序ヲ保持シ及臣民ノ幸福ヲ増進スル爲ニ

行政命令ヲ發スル場合

必要ナル命令ヲ發シ又ハ發セシム但シ命令ヲ以テ法律ヲ變更ズルコトヲ得ス

行政命令ノ種類

- 行政命令ハ左ノ場合ニ發ス
 - (イ) 法律ヲ執行スル爲ニ發ス
 - (ロ) 公共ノ安寧秩序ヲ保持スル爲ニ發ス
 - (ハ) 臣民ノ幸福ヲ増進スル爲ニ發ス
- 右ノ場合ニ於テ天皇親署シテ發スルモノ之ヲ敕令ト云フ
- 或ハ内閣ヲシテ發セシム之ヲ閣令ト云フ
- 或ハ一大臣ノ管理ナル一省ヲシテ發セシム之ヲ省令ト云フ
- 又各府縣ヲシテ發セシムルハ其政委任ニヨルナリ府縣令是ナリ

行政命令ノ効力

- 行政命令ノ効力左ノ如シ
- (イ) 行政命令ハ大權命令ニ抵觸スルヲ得ス換言スレバ大權命令ニ變更ヲ加フルヲ得ス大權命令ノ爲ニ變更セラル。
- (ロ) 行政命令ハ法律ニ抵觸スルヲ得ス換言スレバ法律ヲ變更スルヲ得ズ法律ニ變更セラル
- (ハ) 行政命令ハ行政命令ヲ改廢増減變更ヲナスコトヲ得ル
- (ニ) 行政命令ハ臣民ニ對シ其効力敢テ法律及ヒ大權命令ト異ナルヲナシ
- 但シ右(イ)(ロ)(ハ)ノ項ニ抵觸セサルヲ要ス

(三) 行政機關

憲法第五十五條一項

政府ハ行政高等機關ノ總稱ナリ
 行政機關ノ組織權限ヲ定ムルニ專ラ至尊ノ大權ニ屬シ敕令ヲ以テ之ヲ定メ立法機關ノ如ク憲法之ヲ規定セズ但僅カニ國務大臣樞密顧問會計検査院ノ職務ノ旨趣ヲ示スニ過キズ

會計検査院ノ組織及ヒ職權ハ法律ヲ以テ定ムルヲ憲法上ノ要件ニシテ後段之ヲ説明ス

(イ) 國務大臣
 國務大臣ハ天皇ヲ輔弼シ其責ニ任ス

大政ヲ輔翼シ政務ヲ施行スルニ當リ詔命ヲ奉セルノ一事ハ以テ翼贊ノ道ヲ愆リタル事之ガ

責任ヲ免カレントスル辭柄トナスコトヲ得ズ
翼賛ヲ愆リタルノ責任ハ職務固有ノ責任ニシ
テ君主ニ代ルニアラズシテ君主ニ對シテ負フ
モノナリ
君主ニ對シテ負フ所ノ責任ハ亦間接ニ人民ニ
對シテ負フ

其責任ヲ裁判シ解除スルハ君主ニシテ臣民ハ
間接ニ間責ス何トナレバ君主ノ裁定ハ蓋シ衆
志ノ向フ所ヲ採酌スベクレバナリ
責任ノ性質ハ或ハ單ニ政治上ノ德義ニ止ルコ
アリ或ハ懲罰ニ處セラル、コアリ或ハ民事刑
事又ハ行政處分ニ涉ルコアルベシ

凡テ法律敕令其他國務ニ關ル詔敕ハ國務

詔命ヲ以テ辭
柄トナスコトヲ
得ズ

憲法第五十五
條二項

大臣ノ副署ヲ要ス

國務ニ關スル法律命令ハ大臣ノ副署ヲ要スル
コト憲法上ノ要件トシ大臣ヲ以テ國務行政機
關タルノ義ヲ明カニシ其副署ヲ以テ詔命ノ實
行要件トシ其擔當ノ責任ヲ表示ス
擔當ノ責任ヲ表示スルガ故ニ司法ニ關スルコ
トハ司法大臣副署シ一般ニ關スルコトハ各大臣凡
テ副署ス
副署ヲ要スト云フモ大臣ハ君主ノ命ヲ拒ムノ
權ナシ若シ其要件ヲ拒ムノ權アリトセバ遂ニ
主權ヲ左右スルニ至ラントス
若夫副署ヲナスハ果シテ國家ノ不幸タリト信
セバ其旨趣ヲ疏陳シ尙採用セラレザルモハ斷

斷然辭職スヘシ

内閣官制

内閣ハ國務各大臣ヲ以テ組織シ之ヲ統ルニ總理大臣ヲ以テス
内閣ヲ組織スル必要ハ一ハ以テ政權施行ノ統一ヲ保チ多岐ニ分列スルヲ防キ一ハ以テ各省ノ權衡ヲ保ツナリ

各省ノ權衡ヲ保ツトハ各省ノ分捕主義ノ行ハレザル様ニ制シテ以テ衡平ヲ保ツナリ
總理大臣ハ各大臣ノ首班トシテ機務ヲ奏宣シ旨ヲ承ク行政各部ノ統一ヲ保持ス
必要ト認ムルモ行政ノ處分又ハ命令ヲ中止セシメ勅命ヲ待ツコトヲ得
法律及ヒ一般ノ行政ニ係ル敕令ハ總理大臣及

閣議ヲ經ヘキ件大畧左ノ如シ

- 一 法律案豫算決算案
 - 二 外國條約及重要ナル國際條件
 - 三 官制又ハ規則法律施行ニ係ル敕令
 - 四 諸省間主管權限爭議
 - 五 天皇ヨリ下付セラレ又ハ帝國議會ヨリ送致スル人民ノ請願
 - 六 豫算外ノ支出
 - 七 敕任官及ヒ地方長官任命進退
 - 八 其他高等行政ニ關シ事件重キモノ
- 軍事ニ關スルモノハ下問セラル、場合ノ外閣

其主任大臣副署ス

各省專任ノ敕令ハ其省大臣副署ス

議スルヲナシ陸海軍大臣ヨリ報告ヲナスノミ

憲法第五十六條 樞密院官制

(口) 樞密院

樞密顧問ハ天皇ノ諮詢ニ應ヘ重要ノ國務ヲ審議ス

蓋シ内閣々員ハ行政ノ局ニ當リ自然其事ニ偏寄セザルヲ期シ難シ

永遠ノ良圖ヲナス宜ク優裕局外鍊達ノ士ニ依リ至尊聰明ヲ補裨スルノ機關アルヲ要ス即チ樞密院ノ必要アル所以ナリ

即忠誠ヲ獻替シテ至尊謀テ以テ斷セントスルニ當リ慎重ヲ加フル所以ニ合フベシ

樞密院ハ天皇至高ノ顧問タリ進テ施政ニ關與スルヲ得ズ天皇ノ諮詢ニ應ルノミ

憲法第七十二條

(ハ) 會計検査院

國家ノ歳入歳出ノ決算ハ會計検査院之ヲ

其會議ニ付スヘキ事項左ノ如シ

一 皇室典範ニ於テ其權限ニ屬セシメタル事項

二 憲法ノ條項又ハ憲法ニ附屬スル法律敕令ニ關スル草案及疑義

三 憲法十四條ノ戒嚴ノ宣告同八條七十條ノ敕令其他罰則ノ規定アル敕令

四 列國交渉ノ條約約束

五 樞密院官制及事務規則改正

六 右ノ外臨時諮詢セラル、事項

檢査確定シ政府ハ其檢査報告ト俱ニ之ヲ
帝國議會ニ提出スヘシ
會計檢査院ノ組織職權ハ法律ヲ以テ之ヲ
定ム

國家ノ會計ヲ監督スルハ或ハ間接ニ或ハ直接
ナリ即チ豫算ハ初メノ監督ニシテ決算ハ終リ
ノ監督ナリ

而テ此ヲ監査スル會計檢査院ハ宜ク獨立ノ資
格ヲ有セザレバ遂ニ其目的トスル効ヲ奏セサ
ルニ至ル恐レアリ故ニ其官制並ニ組織ハ法律
ヲ以テ之ヲ定メ行政命令ノ外ニ獨立セシム

第二節 司法作用

司法權
第五十七
條以下

司法權ハ法律命令ニ依準シ私權關係並ニ臣民
ノ權利爭議及ヒ刑罰ヲ裁判スルモノニシテ
天皇ノ名ニ於テ法律ニ依リ裁判所之ヲ行フ

(イ) 法律命令ニ依準シ云々是レ專ラ法律ノ適用
ヲナスモノニシテ便益ヲ以テ變セザルヲ意
味ス

(ロ) 私權關係云々國家ト雖モ財產權ノ如ク即チ
私權主體ノ資格ヲ以テスルモノハ司法裁判
ニ從フベキガ如キ是ナリ

(ハ) 臣民ノ權利爭議云々臣民ノ權利ハ私權關係
ノミニ止マラズ公權ノ争例之選舉訴訟ノ如
キモ司法裁判ニ屬スルヲ表示スルナリ
(ニ) 刑罰ヲ云々ト云フハ規則ノ處罰並ニ刑法上

憲法第六十條

裁判所即チ司法機關ハ通常裁判所及ヒ特別裁判所ノ二種トス

- ノ裁判ノ如キヲ云フ
- (ホ) 天皇ノ名ニ於テ云々此行政ト形式上特ニ異ナル所ナリ裁判ハ必ズ常ニ 天皇ノ名ニ於テ行フナリ
- (ヘ) 裁判所之ヲ行フ即チ裁判所ハ司法權ヲ行フ機關ナルヲ表スルナリ而テ行政ニ獨立セシムルナリ
- (イ) 通常裁判所ハ即チ特別裁判所ノ權限ニ屬セシメタルモノ、外一切ノ民事並ニ刑事ヲ裁判スル所ニシテ其種類左ノ如シ
- 一 區裁判所

二 地方裁判所

三 控訴院

四 大審院

各裁判所ノ性質權限ハ裁判所構成法ノ定ムル所ナリ

(ロ) 特別裁判所ハ例之陸海軍人ニ於ル軍法會議
其他將來發布サルベキ商工裁判所ノ如キモノヲ云フ

裁判所ノ構成ハ法律ヲ以テ之ヲ定ム

法律ヲ以テ定ムルハ行政組織ト異別スルナリ
司法ノ官ハ法律ノ基礎ニ立チ不羈ノ地位ヲ保障シ行政官制ノ如ク敕令ヲ以テ變更セシメサルヲ示スナリ

司法權ノ獨立

不羈ノ裁判所ヲシテ行政威權ノ外ニ立チ法令
ヲ適用シテ牽制ヲ受ル所ナシ此ヲ司法權ノ獨
立ト云フ
裁判ノ公正ヲ維持セントセバ裁判官ヲシテ威
權ノ干涉ヲ離レ不羈獨立ノ位地ニ立タシメ勢
位及ヒ政論ノ如何ニ牽束セラレザランコトヲ要
ス於是裁判官ハ刑法ノ宣告又ハ懲戒ノ裁判ニ
由ルノ外其職ヲ免セラレルコトナシ

終身官
憲法第五十八
條二項

裁判官ハ修身官ナリ刑法ノ宣告又ハ懲戒ノ條
規モ法律ヲ以テ命令ヲ以テ變更スルコトナキ
ヲ保障スルナリ

憲法第五十八
條一項

裁判官ハ法律ニ依リ定メタル資格ヲ具フル者

ヲ以テ之ニ任ス

裁判官ハ法令ヲ主持シテ臣民ノ上ニ公平ヲ維
持ス法律學識經驗ニ於テ之ヲ任スルニ充分ノ
資格アルヲ要ス而其資格ハ法律ヲ以テ之ヲ定

憲法第五十九
條裁判ノ公開

裁判ノ對審判決ハ之ヲ公開ス但シ安寧秩序又
ハ風俗ヲ害スルノ虞アルトキハ法律ニ依リ又
ハ裁判所ノ決議ヲ以テ對審ノ公開ヲ停ムルコ
トヲ得

公開ハ臣民ノ權利ヲ保安スルナリ蓋シ之ヲ秘
密ニ行フハ私曲ニ陷ルノ恐アリ
其公開ヲ停ムル場合ハ公開ヲ以テ却テ之ヲ秘
密ニスルヨリ一層ノ危害又ハ弊害ヲ來サンコ

ヲ恐ル、場合ナリ

例之ハ内亂外患又ハ兇徒嘯集等ノ場合ニ於テ
公判ヲ傍聽シテ一層ノ激怒ヲ加ヘ更ニ動亂ヲ
起サズトモ計ラレザル場合ノ如キ是ナリ

憲法第六十一條

行政官ノ違法處分ニ由リ權利ヲ傷害セラレタ
リトスル訴訟ニシテ別ニ法律ヲ以テ定メタル
行政裁判所ノ裁判ニ屬スヘキモノハ司法裁判
所ニ於テ受理スルノ限リニアラズ

行政裁判所

公私ノ權利ヲ認メ法律之ヲ保護ス行政處分ノ
爲ニ侵サ、ラシムル爲ニ行政裁判所ヲシテ行
政處分ノ當否ヲ裁判セシム

若シ司法裁判所ヲシテ行政處分ノ當否ヲ判決
スルニ至ラベ行政權ハ遂ニ司法權ノ爲ニ獨立

ヲ害セラレントス

行政司法各獨立シテ憲法及ビ法律ニ從ヒ各責
任ヲ有シ其職ヲ盡スニ於テ各自ノ職權内ニ於
テ處分ノ違法ヲ裁判スル權ヲ有セシム寧ロ當
然タルベシ是レ行政處分ニ關スル裁判ハ行政
裁判所ヲシテ爲サシムル所以ナリ

第四編 憲法ノ改正並ニ憲法
ト現行法及ヒ皇室典
範トノ關係

憲法第七十三條

(イ) 憲法ノ改正

我憲法ハ欽定ニシテ臣民タルモノ仰クヘク
シテ批議スヘカラズ然レモ將來此憲法ノ條
項ヲ改正セシムル必要生シタル場合ハ如何
此場合ニ於テハ獨リ至尊ニ於テ發議ノ權ヲ
執リ之ヲ帝國議會ノ議ニ付スヘシ
帝國議會ハ各其總議員ノ三分ノ二以上ノ出
席ナケレハ議事ヲ開クコトヲ得ス

第四編 憲法ノ改正並ニ憲法ト現行法及ヒ皇室典範トノ關係

又出席議員三分ノ二以上ノ多數ヲ得サレハ
改正ヲ議決スルヲ得ズ

國家社會ノ變遷ハ千歳不磨ノ大典ヲシテ必シ
モ永久ニ適當ナルヲ保シ難カラシム乃將來
此ヲ改正スルノ必要生スル場合アルベシト確
モ一旦定メタル大典ハ至尊臣民其德ヲ一ニシ
王家ノ專意ヲ以テ變更スルヲ欲セス即チ議會
ノ議ニ付スル所以ナリ

其三分ノ二以上ノ出席ト三分ノ二以上ノ多數
ヲ要スルハ之ヲ慎重スル所以ナリ

憲法ノ改正ハ攝政ヲ置クノ間ハ之ヲナスコ
チ得ス皇室典範ノ改正モ亦同シ

國家皇室至重ノ關係ナルモノ元ヨリ假攝ノ位

憲法第七十五條

置ノナス能ハザル所而シテ國家動亂ノ徵ヲ防
クナリ

憲法第七十四條

(ロ) 憲法ト皇室典範トノ關係

皇室典範ハ皇室一家ノ事ニ屬シ君民相關ス
ルニアラズ故ニ此カ改正モ民議ヲ容レズ故
ニ帝國議會ノ議ヲ經ルヲ要セズ

民議ヲ容レズト云フモ絶對ノモノニアラズ即
チ樞密顧問ニ諮詢スベキト皇室典範ノ規定ス
ル所ナリ

憲法改正ノコアル場合ニ於テ其結果トシテ皇
室典範ノ改正ヲ要スルコアルベシ然レモ此等
ハ皇家ノ專意ヲ以テナスヘク憲法ノ規定セザ
ル所ナリ

憲法第七十六條

皇室典範ヲ以テ憲法ノ條規ヲ變更スルコトヲ得ス
 若シ否ラズトセバ憲法ノ基礎ハ遂ニ保障ナキニ至ラントス
 (ハ) 憲法ト現行法令トノ關係
 法律規則命令又ハ何等ノ名義ヲ用非タルニ拘ラス此憲法ニ矛盾セザル現行ノ法令ハ總テ遵守ノ效力ヲ有ス
 (ニ) 附言
 司法權ト行政權トノ抵觸ヨリ互ニ其權限ヲ爭フ場合ニ之ヲ裁判スル裁判所之ヲ權限爭議裁判所ト云フ此權限爭議裁判所ハ我國未

タ之ガ設定ナキニヨリ他日其成立ヲ見タル上ニ於テ論スル期アルヘシ蓋シ此權限爭議裁判所ハ予カ曩ニ類別ヲナシタル統治權各種ノ作用中何レニ屬スヘキ乎ニ就キ好問題タルベシ

國民憲法大意大尾

第四編 憲法ノ改正並ニ憲法ト現行法及ビ皇室典範トノ關係

明治三十三年七月五日印刷
明治三十三年七月八日發行

正價五拾錢

群馬縣前橋市山輪町二十七番地

著者 池田光之丞

東京市麻布區新網町壹丁目五十壹番地

發行者 中野竝助

東京市京橋區西紺屋町廿六七番地

印刷者 青木弘

東京市京橋區西紺屋町廿六七番地

印刷所 株式會社秀英舍



東京市麻布區麻布新網町壹丁目五十壹番地

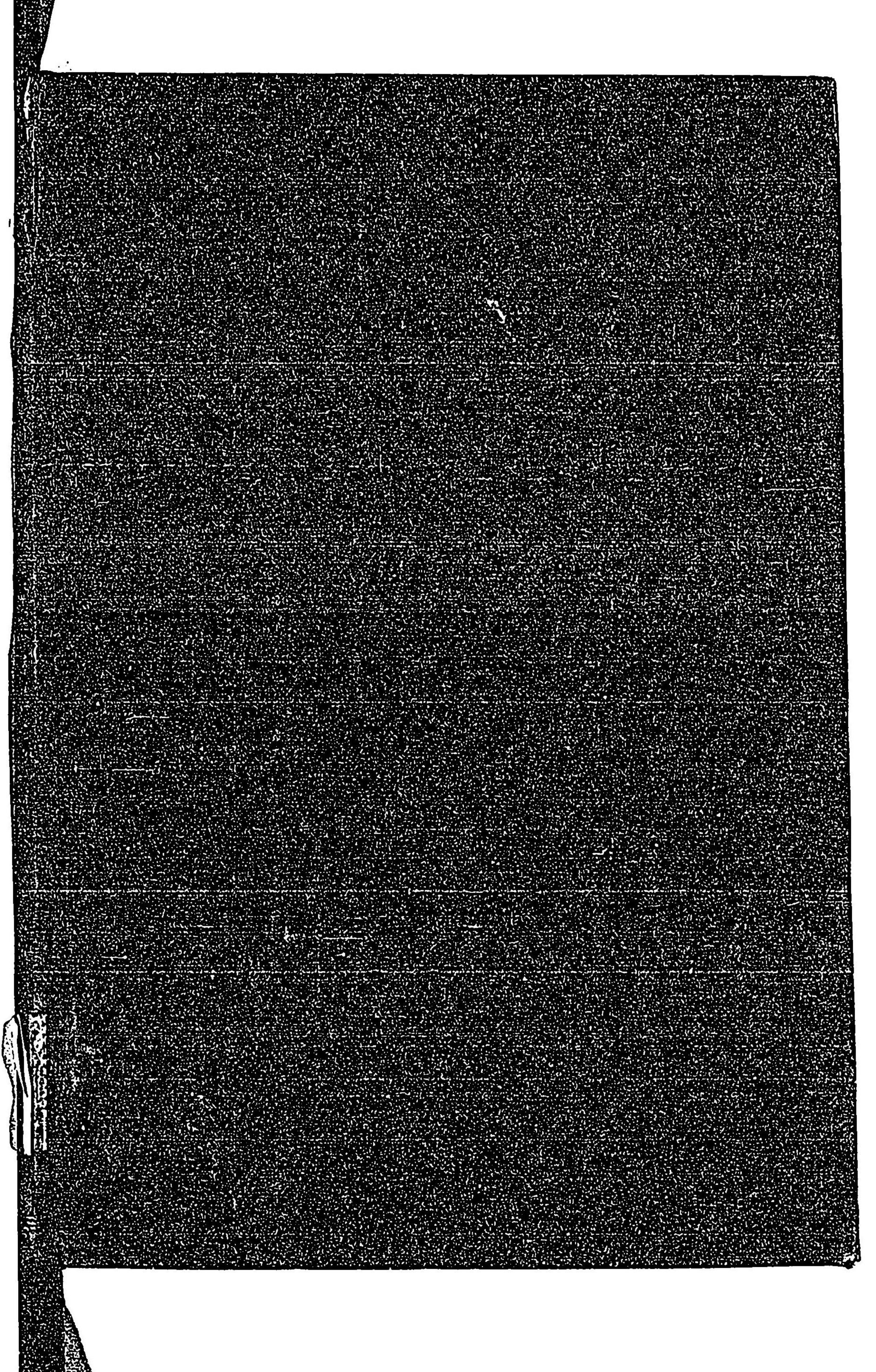
發行所

教育書出版專賣

扶桑館

16/3/38

87
43



87
43

031503-000-7

87-43

憲法大意 (国民教育)

池田 光之丞 / 著

M33

BBE-0102



